

平成 26 年度学童期の発達支援研修会 (ティーチャー・トレーニング) におけるアンケート調査の結果について

1. はじめに

長崎県では、平成 20 年度から平成 24 年度までの 5 年間、保育士・幼稚園教諭・その他の発達障害児支援に係る関係者を対象に、発達障害児や発達上気になる児への支援に有効とされる、ティーチャー・トレーニングを、長崎県独自にプログラムを組みなおし、取り組んできた。

保育士等に対しては、効果測定として保育への自信の変化、対象児に対しては行動変化を指標とし、プログラムの実施前後に調査を行ったところ、両指標の変化から、トレーニング後の保育士の自信の高まりと、児への支援の必要性の低下、さらにその継続的な効果が示された。このことから、ティーチャー・トレーニング長崎県版の実施が、児への支援に有効であり、また、支援者にとっても保育の自信を回復する一助となることが考えられた。

さらに、継続的な支援を考えた場合、保育所・幼稚園等の幼児期だけでなく、就学後の支援が必要であると思われる。また、教育関係者へ、ティーチャー・トレーニングの啓発研修及び、事業説明を行ったところ、発達障害をもつ児童・生徒、また発達上気になる生徒との関わりを学びたいという意見が多く挙がっている。

また、保育士等へのティーチャー・トレーニングプログラムの実施結果より、同じように集団の場で行動観察を行い、関わる教育関係者にとっても、本プログラムが支援の一助となることが期待できる。

そこで平成 25 年度より「学童期の発達支援研修会」として、学童期の教育関係者に対して、ティーチャー・トレーニング長崎県版を実施し、効果測定として、児の行動変化及び、関わる教育関係者の教育への自信に着目し、どのような影響を及ぼすか検討した。

2. ティーチャー・トレーニングについて

(1) 実施期間

平成 26 年 8 月～平成 26 年 12 月。

(2) 実施方法

ティーチャー・トレーニングは、原則 2 週間から 1 ヶ月間に 1 回の計 5 回、1 回約 2 時間から 2 時間 30 分のプログラムで実施。プログラムは、精研方式に属する岩坂ら(2004)の「AD/HD のペアレント・トレーニングガイドブック」を参考に、長崎県独自のプログラムで実施した。各セッションのテーマを表 1 に、また各回のすすめ方と概要を以下に示す。

表 1 各セッションのテーマ

	主な内容	ホームワーク
第 1 回	・ティーチャー・トレーニングとは ・「行動の客観的な観察と理解」	行動観察シート 1
第 2 回	「行動観察から行動分析へ・子どもの行動を 3 つに分けよう」	行動のタイプ分けシート
第 3 回	「肯定的な注目」	ほめ方シート
第 4 回	「子どもが動きやすい指示の出し方」	指示の出し方シート
第 5 回	「注目はずし、警告とペナルティ」	行動観察シート 2

～各回の主なすすめ方～

各回のプログラムを以下の手順で進めていった。

- ① ウォーミングアップ（アイスブレイキング）
グループの緊張緩和や、凝集性を高めることを目的として、第 1 回～第 5 回（もしくは全回）まで実施。
- ② グループワーク（前回のホームワークの実践発表）
前回のホームワークを発表することによって、関わりについての気づき等の相互学習、グループ内で交流を促す。
- ③ ブレイクタイム
10 分休憩によって、受講者同士の交流を促す。
- ④ ミニ講話（ロールプレイ）
各回のテーマに沿い、資料を使って学習。テーマによっては、ロールプレイを取り入れた体験学習。次回のホームワークの説明。

(3) 募集方法

長崎県内 8 保健所より担当地域の、教育委員会や学童保育等へ参加募集文書を配布し、各管内の小学校低学年から中学年までの学童児に関わる支援者等を対象とした。対象の選択基準は、主に全 5 回とも参加が可能であり、ホームワークの提出が可能である者とした。

(4) 受講者

長崎県内 5 保健所を介して、25 名が受講。

(5) スタッフ

主に保健師、社会福祉職、作業療法士、言語聴覚士、心理士が従事し、スタッフ構成は各保健所によって異なる。従事人数は 2～4 名で、全体の進行を担うリーダーは、心理

士が担当し、他にサブリーダー1名と書記を1名～2名で担当。

3. アンケート調査について

(1) 調査期間

平成26年5月～平成27年3月

(2) 調査対象者

受講者25名(6グループ)に対し、事前、事後、1ヵ月後、3ヵ月後にアンケート調査を実施。25名中23名のアンケートが揃った。事前、事後、1ヵ月後、3ヵ月後について23名分(6グループ)を対象に分析を実施。なお、統計的分析にはJavaScript-STARを用いた。(http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/)

(3) ティーチャー・トレーニングの効果と持続性の測定の指標

① 自信度調査(教育者自身に関する調査)(十枝,2009)

本プログラムによる教育への自信度変化を検討するため、トレーニング前・後・1ヵ月後・3ヵ月後にアンケートを実施。

アンケートは、現在の受講者自身について問う39項目からなり、「非常によくあてはまる;5」、「ややあてはまる;4」、「どちらとも言えない;3」、「あまりあてはまらない;2」、「全く当てはまらない;1」までの5件法である。

結果は、39項目の評価平均が高得点であるほど教育への自信が高いことを示している。また、39項目から抽出された9因子があり(表2)、各因子も評価平均を算出し、その変化で教育への自信を測る。第9因子は、発達障害児を担当している受講者が少数であったため、分析対象から除外した。

表2 自信度調査の9因子

因子	内容
第1因子	教師が子どもの行動を理解し目標設定して関わる
第2因子	教師が他の教師と養育について共感する
第3因子	教師が子どもの感じ方に共感する
第4因子	教師が自分自身の教育を肯定的にみとめる
第5因子	教師が子どもをほめて学校生活を楽しむ
第6因子	教師が自分自身を変えることができる
第7因子	教師が子どものとらえ方を広げる
第8因子	教師が子どもに自信を持たせることができる
第9因子	教師が発達障害の知識を持つ

② SDQ(子どもの強さと困難さアンケート)

本プログラムによるホームワーク実践対象児の行動変化を検討するため、トレーニング前・後・1ヵ月後・3ヵ月後にアンケートを実施。「子どもの強さと困難さアンケート

ト) (Strengths and Difficulties Questionnaire, 以下 SDQ) は、幼児期から就学前の行動スクリーニングのための質問紙法であり、子どもの特性をよく捉えることができるとされている。また、子どもの困難さのみではなく、強みも評価できる特徴がある。

質問項目は5つのサブカテゴリー（行為面、多動・不注意、情緒面、仲間関係、向社会性）について各5項目により構成されている。すべての項目について「あてはまる；2」、「まああてはまる；1」、「あてはまらない；0」の3件法である。サブカテゴリーごとの合計得点（最高10点）により、支援の必要性を High Need（おおいにある）、Some Need（ややある）、Low Need（ほとんどない）の3段階で評価する。

さらに、行為面、多動・不注意、情緒面、仲間関係の4つのサブカテゴリーの合計得点、Total Difficulties Score（以下、TDS）を算出し、全体的な支援の必要性を表す指標とする。支援の必要性の分類の基準値を表3に示す。基準値はサブカテゴリーごとに異なり、向社会性は、逆転項目であるため、点数が低い方が支援の必要性は High Need となる（玉井・堀江・寺脇・村松，2011）。

表3 SDQ スコアの評価表（4～12歳，2899名のデータから分析）

サブスケール【項目No】		支援の必要性			
		Low Need	Some Need	High Need	
1	行為面	【5, 7, 12, 23, 25】	0-3	4	5-10
2	多動・不注意	【2, 10, 15, 22, 24】	0-5	6	7-10
3	情緒面	【3, 8, 13, 16, 21】	0-3	4	5-10
4	仲間関係	【6, 11, 14, 18, 20】	0-3	4	5-10
5	向社会性	【1, 4, 9, 17, 19】	6-10	5	0-4
Total Difficulties Score (TDS) (1～4の合計)			0-12	13-15	16-40

③ 受講者のティーチャー・トレーニング感想アンケート

本プログラムの意見や感想を問うため、ティーチャー・トレーニング最終回後に自由記述のアンケートを実施。

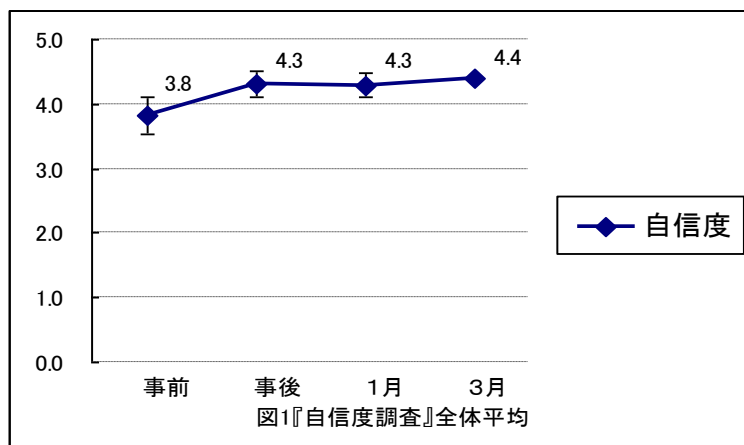
4. 結果

(1) 受講者の自信度調査（教育関係者自身に関する調査）について

ティーチャー・トレーニングの実施前後で教育への自信がどのように変化するか、その効果と持続性を調査時期ごとに以下のように検討。長崎県で実施しているティーチャー・トレーニングが教育への自信を高める要因となるか、その効果と持続性を検討するため、①統計結果（一要因分散分析結果）、②統計結果（分散分析）で有意差がみられたトレーニンググループの割合を示した。

① 統計結果（一要因分散分析結果）

受講者の調査時期ごとの自信度調査総平均の変化を図 1 に示した。調査時期（事前・事後・1 ヶ月後・3 ヶ月後）ごとの自信度調査結果について統計分析（一要因分散分析）したところ、調査時期の自信度に有意差がみられた ($F(3,66)=36.79, p<.01$)。さらに、フィッシャーの LSD 検定による多重比較の結果、トレーニング前よりもトレーニング後の教育の自信度が高くなり、3 ヶ月後においても、トレーニング前よりも有意に高い自信度となっていた。トレーニング後と1 ヶ月後及び3 ヶ月後には有意な差はみられなかった。 ($MSe=0.0403, p<.05$)。



② 統計結果（分散分析）

因子平均毎に統計分析（分散分析）をしたところ（図 2）、第 1～8 因子全てについて調査時期の自信度に有意差がみられた（表 4）。フィッシャーの LSD 検定による多重比較の結果、有意差のあった 8 因子においてトレーニング前より後、および1 ヶ月後、3 ヶ月後の自信度が高くなっていた。（表 5）。

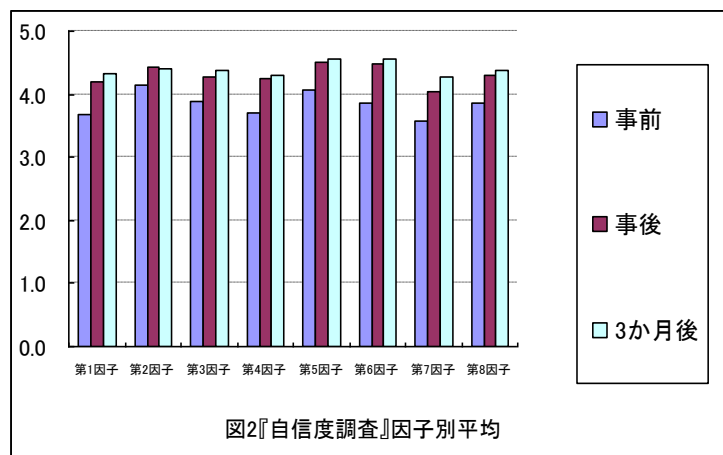


表 4 『自信度調査』因子別分散分析と多重比較の結果

	分散分析結果	フィッシャーの LSD 検定結果
第 1 因子	$F(3,66)=30.99, p<.01$	$MSe=0.0586, p<.05$
第 2 因子	$F(3,66)=10.11, p<.01$	$MSe=0.0399, p<.05$
第 3 因子	$F(3,66)=22.81, p<.01$	$MSe=0.0562, p<.05$
第 4 因子	$F(3,66)=21.39, p<.01$	$MSe=0.0784, p<.05$
第 5 因子	$F(3,66)=17.72, p<.01$	$MSe=0.0659, p<.05$
第 6 因子	$F(3,66)=14.14, p<.01$	$MSe=0.1683, p<.05$
第 7 因子	$F(3,66)=20.54, p<.01$	$MSe=0.1121, p<.05$
第 8 因子	$F(3,66)=17.58, p<.01$	$MSe=0.0800, p<.05$
自信度全体	$F(3,66)=36.79, p<.01$	$MSe=0.0403, p<.05$

表 5 因子ごとの分散分析と多重比較の結果

因子	有意水準	時期の比較			
		前	後	前	後
自信度全体	1%	<	<	<	1月
		<	3月	n.s.	1月
		n.s.	3月	1月	n.s.
第 1 因子	1%	<	<	<	1月
		<	3月	n.s.	1月
		n.s.	3月	1月	<
第 2 因子	1%	<	<	<	1月
		<	3月	n.s.	1月
		n.s.	3月	1月	n.s.
第 3 因子	1%	<	<	<	1月
		<	3月	n.s.	1月
		n.s.	3月	1月	n.s.
第 4 因子	1%	<	<	<	1月
		<	3月	n.s.	1月
		n.s.	3月	1月	n.s.
第 5 因子	1%	<	<	<	1月
		<	3月	n.s.	1月
		n.s.	3月	1月	n.s.
第 6 因子	1%	<	<	<	1月
		<	3月	n.s.	1月
		n.s.	3月	1月	n.s.
第 7 因子	1%	<	<	<	1月
		<	3月	n.s.	1月
		<	3月	1月	n.s.
第 8 因子	1%	<	<	<	1月
		<	3月	n.s.	1月
		n.s.	3月	1月	n.s.

(2) 子どもの変化について(『SDQ ; 子どもの強さと困難さアンケート』)について

ホームワーク実践対象児の行動変化について、SDQを用いて効果と持続性を以下のように検討した。

① 『SDQ』全体 (TDS)

全受講者の調査時期ごとの TDS 総平均の変化と標準偏差 (=データのばらつき)、および支援の必要性の変化を図3 (支援の必要性を示す棒グラフは、標準値を示している) と表6に示した。調査時期(事前・事後・1ヵ月後・3ヵ月後)ごとの TDS 結果について統計分析(一要因分散分析)を行ったところ、調査時期の TDS に有意差がみられた ($F(3,66)=11.45, p<.01$)。調査時期ごとにどのような差があるか検討した結果、受講前よりも受講後、1ヵ月後及び3ヵ月後において有意な TDS の低下をしていた ($MSe=8.3439, p<.05$)。

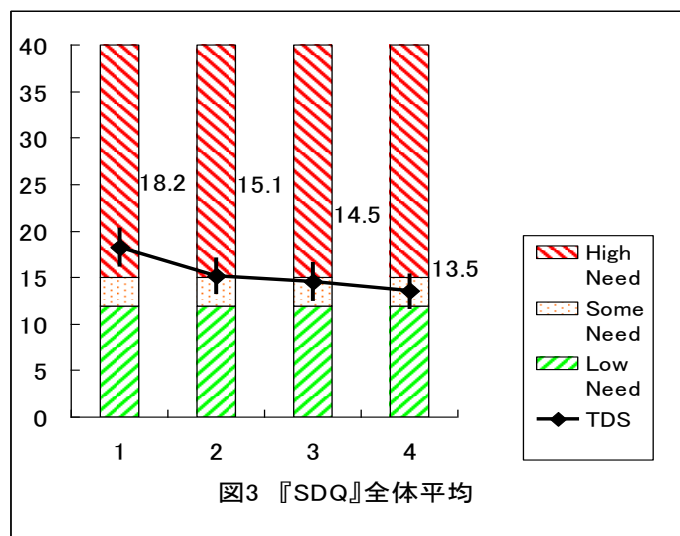


表6 各カテゴリーの数値と支援の必要性

	事前	事後	1ヵ月後	3ヵ月後
行為	4.5 High	2.9 Low	2.7 Low	2.7 Low
多動	7.0 Low	6.4 Low	6.2 Low	5.7 Low
情緒	2.5 Low	2.6 Low	2.1 Low	2.0 Low
仲間関係	4.2 High	3.2 Some	3.6 Some	3.1 Some
向社会性	3.3 High	4.7 High	5.0 Some	5.3 Some
合計	18.2 High	15.1 High	14.5 Some	13.5 Some

② 『SDQ』：サブカテゴリー別

参加者の調査時期ごとのサブカテゴリー総平均と支援の必要性の変化を図4に示した。

調査時期（事前・事後・1ヵ月後・3ヵ月後）ごとのサブカテゴリー結果について統計分析（一要因分散分析）を行ったところ、「情緒カテゴリー」においては有意差がみられず、それ以外のカテゴリーにおいては、有意差がみられた（表7）。これは、「情緒カテゴリー」の支援の必要性が、事前・事後・1ヵ月後・3ヵ月後のいずれの時期においても Low Need であったためと考えられる。

カテゴリーごとにどのような差があるか検討（フィッシャーのLSD検定による多重比較）した結果（表8）、「行為カテゴリー」、「向社会性カテゴリー」は、トレーニング前よりもトレーニング後、1ヵ月後及び3ヵ月後に有意な低下を示していた。「多動・不注意カテゴリー」は、トレーニング前よりも1ヵ月後及び3ヵ月後に有意な低下を示していた。「仲間関係カテゴリー」は、トレーニング前よりも、トレーニング後及び3ヵ月後に有意な低下を示していた。「多動・不注意カテゴリー」においては、トレーニング後と3ヵ月後は有意な低下が示されていることから、支援の必要性が継続的に低下していることが考えられる。「多動・不注意カテゴリー」以外のカテゴリーにおいては、トレーニング後と3ヵ月後は有意差がみられず、同程度の値を示していたことから、好転の状態を維持していると考えられる。また、情緒カテゴリーについてはトレーニング前・後・1ヵ月後・3ヵ月後のいずれの時期においても Low Need を維持していた。

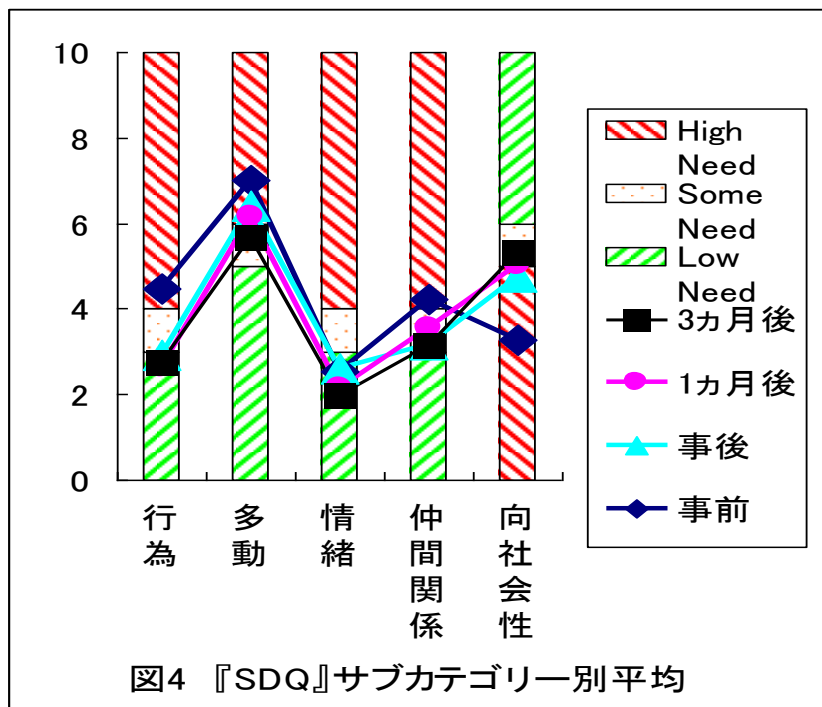


表 7 『SDQ』サブカテゴリー別分散分析と多重比較の結果

	分散分析結果	フィッシャーのLSD検定結果
行為	$F(3,66)=8.60, p<.01$	$MSe=1.9765, p<.05$
多動・不注意	$F(3,66)=4.48, p<.01$	$MSe=1.6040, p<.05$
情緒	$F(3,66)=1.60, ns$	
仲間関係	$F(3,66)=3.59, p<.05$	$MSe=1.6215, p<.05$
向社会性	$F(3,66)=13.08, p<.01$	$MSe=1.4681, p<.05$
SDQ 全体	$F(3,66)=11.45, p<.01$	$MSe=8.3439, p<.05$

表 8 各因子の有意水準と時期の比較

因子	有意水準	時期の比較					
SDQ 全体	5%	前	>	後	前	>	1月
		前	>	3月	後	n.s.	1月
		後	n.s.	3月	1月	n.s.	3月
行為	5%	前	>	後	前	>	1月
		前	>	3月	後	n.s.	1月
		後	n.s.	3月	1月	n.s.	3月
多動 不注意	5%	前	n.s.	後	前	>	1月
		前	>	3月	後	n.s.	1月
		後	>	3月	1月	n.s.	3月
情緒	n.s.						
仲間関係	5%	前	>	後	前	n.s.	1月
		前	>	3月	後	n.s.	1月
		後	n.s.	3月	1月	n.s.	3月
向社会性	5%	前	>	後	前	>	1月
		前	>	3月	後	n.s.	1月
		後	n.s.	3月	1月	n.s.	3月

5. 教育者のティーチャー・トレーニング終了アンケートについて

本プログラム終了後に行ったアンケートから、以下の感想が出された。

(1) 子どもへの対応の変化について

- ・ 子どものことが冷静に観ることができるようになってきた。
- ・ トラブルの前の行動に目を向けるようになった。
- ・ 子どもの様子を見て気持ちを理解して対処しようとするようになった。以前より余裕が持てるようになった。
- ・ 子どもの見方、声のかけ方、ほめ方が変わった。何よりも穏やかな気持ちになるように努めるようになりました。
- ・ 肯定的な注目を心がけるようになり、それによって子どもたちへの言葉かけが変わってきた。
- ・ 子どものよい行動を具体的に伝えようと努力した。
- ・ 子どもが当たり前のことをしても、出来ているときは気がけてほめるようになった。
- ・ 100%の出来を求めなくてよくなったので、「こうさせなきゃ」という気持ちがなくなり、楽になった。
- ・ 指示、声かけ、対応するときなど、それを受けた時の子どもの気持ちをまず考えるようになった。
- ・ 「出来たらすぐほめよう」という視点で見守ることができるようになった。
- ・ 子どもの行動や様子を見て、少しのことでもほめようとしている。
- ・ 落ち着いた心で接せられるようになった。
- ・ 自分の教育理想を子どもたちへ押しつけてしまいがちだが、子どもの立場を考慮し、待つことができるようになってきた。

(2) 子ども自身の行動変化について

- ・ 「この人は話を聞いてくれる」と思ってもらえるようになった。
- ・ 落ち着いた言動が増加。がんばることができる場面が増えてきた。
- ・ 会話ができるようになったり、みんなでいるときに少しがまんしてくれるようになった。
- ・ 主張したいときに少し周りのことに気が回るようになってきた。
- ・ よりがんばろうという姿勢が見られるようになった。
- ・ 子どもの情緒も安定してきたように思う。
- ・ 勝ち負けへのこだわりがやや減り、うまくいかないことがあっても泣いたり怒ったりすることがなくなってきた。
- ・ ほめられることで、我慢することや良い行動を進んでしようとするようになった。
- ・ やる気が出てきた。
- ・ 子どもに主体性が出てきた。うなずく素直さが少し出てきた。
- ・ しっかり目を見て話しをするようになったと思う。
- ・ 進んでがんばってくれる姿が多く見られるようになった。

- ・ 感情をあらわにする傾向が減った。
- ・ 衝動性が減り落ち着いてきた。「先生！」と声をかけてきたり甘えたりしてくるようになった。「ダメなものはダメ」と注意しても大丈夫になった。
- ・ 自分で考えて行動できるようになってきたことや、それが次のことにもつながっている。

(3) 一番役に立った内容について

- ・ 肯定的な注目、NG 注目、25%ルール、CCQ で指示 + ほめる。
- ・ 段階を追って、子どもたちへのアプローチの仕方を学び、それをホームワークとして実践したことで具体的に理解することができた。また、他の先生がたの取り組みを聞いて学ぶこともたくさんあった。
- ・ 子どもの行動の理由や種類を知り、客観的に物事を捉えるくせがついたと思う。
- ・ 大声は百害あって一利なし。適切な指示の出し方。
- ・ 少人数の研修会だったので、具体的な内容について率直に話合うことができてよかった。他の先生方の話を聞くことで、共通の悩みや指導のヒントなどを共有できた。
- ・ 「4つの行動の目的」や「強化の理論」は子どもの気持ちがよくわかった。
- ・ いろいろなスキルの内容もよかったが、根底は子どもをよく観察することが大切ということを学んだ。

◆考察

長崎県で保育士等に対し実践してきたティーチャー・トレーニングの短縮プログラムを学童期版に改定したプログラムが、学童期の児童に関わる教師や教育関係者に対して、教育場面での自信を高める要因となるか、また、対象児に対してどのような影響があるか、プログラムの効果と持続性について検討した。

その結果、トレーニング前の自信度はトレーニング後、1ヵ月後及び3ヵ月後に上昇しており、本プログラムが教育関係者が子どもたちと関わる際の自信を高める一助となることが考えられる。また、3ヵ月後においても高い値を示していたことから、その効果には持続性もあると考えられる。

また、対象児の変化については、いずれの項目においてもトレーニング前よりもトレーニング3ヵ月後に有意な低下が見られ、支援の必要性が継続的に低下していた。このことから、教育関係者の自信を高めるだけでなく、児への気になる行動へも好転の一助となることが期待できる。

ティーチャー・トレーニング終了後アンケートにおいて、最も記載が多かったことは、「行動観察」と、「ほめる」ことであった。日常の中で受講者がティーチャー・トレーニングの基礎である行動観察を積み重ねていくことで、子どもの行動をより理解しようと努め、子どもとの悪循環の関係から良循環へと変化させたことが考えられる。

また、この実践のためには周囲との共通理解が不可欠である。プログラム参加中にどのように周囲の関係者と情報共有していくかも、結果に影響すると考えられる。

以上のことから、本プログラムは学校現場および、教育関係者と、発達障害をもつ児及び、発達上気になる行動をする児との関係を改善する一助となることが期待できる。

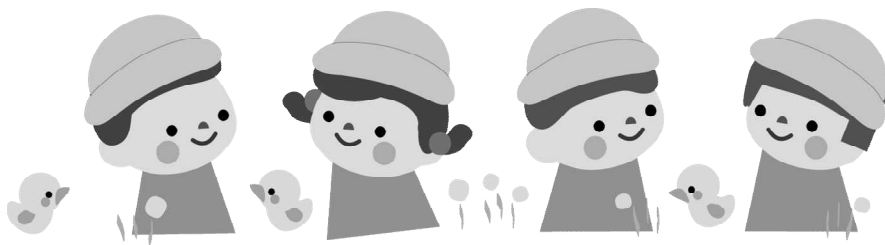
今後の課題としては、本プログラムの全 5 回に継続的に参加できる教育関係者が少ないことである。特に、日常業務で多忙な通常学級の担任にとって継続的な参加は難しい。しかし、通常学級には発達上気になる行動をする複数の児が在籍しており、それらの児との関わり方で苦勞している通常学級の担任が多いのが現状である。したがって、本プログラムの回数を含め、本プログラムを学校現場に沿ったものにしていく必要がある。

<文献>

- 岩坂英巳・中田洋二郎・井潤知美（2004）.AD/HD 児へのペアレント・トレーニングガイドブックー家庭と医療機関・学校をつなぐ架け橋 じほう
- 北道子・川内美恵・藤井和子（編）（2009）.こうすればうまくいく発達障害のペアレント・トレーニング実践マニュアル 上林靖子（監修） 中央法規出版株式会社
- 十枝はるか（2009）. 学習障害や注意欠陥/多動性障害、高機能自閉症等をもつ子ども支援を目的としたティーチャー/プログラムの作業療法的介入効果に関する研究 広島大学大学院保健学研究科保健学専攻博士論文（未公刊）
- 岩坂 英巳 編著（2012）困っている子をほめて育てるペアレント・トレーニングガイドブックー活用のポイントと実践例ー じほう

先生と子どもたちとのプラスの循環を広げよう！

“行動観察 と ほめる” を 仲間実践するためのハンドブック



平成 27 年 3 月
長崎県こども家庭課

はじめに

このハンドブックは、ティーチャー・トレーニングを受けたことがある方を主な対象に、自分の園や勉強会等でこのプログラムをやってみたい!と思ったときに、参考にしてもらおうためのものです。

長崎県では、平成20~24年度まで、発達障害児支援体制整備事業の一環で、「保育所(園)・幼稚園等発達支援研修会」として、保育士や幼稚園教諭等子どもたちの発達に関わる方々と、長崎県独自に改良したティーチャー・トレーニングのプログラムを行ってきました。参加して頂いた皆様からは、「自分の保育を見直すきっかけになった」「保育が楽しくなった」といった声が寄せられています。

平成25年度からは同事業の一環で、「地域発達支援体制整備研修会」として、地域の中にティーチャー・トレーニングのプログラムを実施できる方を養成し、より多くの皆様に、身近な場所でこのプログラムに参加していただくことを目的とした研修を始めています。

これまで実施してきたプログラムは、保育や教育の現場の先生方向けに少しずつ改定していますが、現場は日々凄いスピードで動いています。実際に実施する中で、様々な課題への対応や、手法の工夫等が必要となることもあるでしょう。このハンドブックで紹介しているものは、あくまで一方法の提案であり、実施すべき内容を強制するものではありません。繰り返し繰り返し実践される中で、実施される方そして受講される方に合った方法を発見していく…ご興味を持たれた方が、プログラムを展開される際のヒントにさせていただく一助となれば幸いです。何より大切なことは、まず実践してみることです。きっと色々な発見があることと思います。

また、実際にこのハンドブックをご活用下さった方々や、ティーチャー・トレーニングを実施しておられる方々の、ご意見・ご提案を頂きながら、今後も改良に取り組みたいと考えています。

保育や教育に関わる皆様、そして子どもたちが、毎日楽しく過ごす一助としてご利用いただけますと幸いです。

平成27年3月 こども家庭課 母子保健班

もくじ

1. 教室を開催する前の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3
 - (1) 必要な役割、プログラムの内容、受講対象等を確認しよう
 - (2) 園での実践例（時間、場所、回数、先生たちの反応）を参考にしよう
 - (3) 受講者を募ろう

2. プログラムを使って教室を開いてみよう・・・・・・・・・・・・・・・・P8
 - (1) 各回の進行役としてのポイントを理解しよう
 - (2) 資料を準備しよう
 - (3) グループワークをしてみよう
 - (4) ステップ学習をしてみよう
 - (5) よくある質問

3. 教室を開いた後のフォローについて・・・・・・・・・・・・・・・・P13

4. 参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P13

5. 配布資料のもくじ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P14

1. 教室を開催する前の準備

(1) 必要な役割、プログラムの内容、受講対象等を確認しよう

①役割について

基本となるスタッフは2名以上で、進行役(インストラクターやリーダー)1名と、それを支えてくれるサブリーダーが少なくとも1名はいることが理想的です。なお、進行役1名の場合のみは、受講者の方にご協力いただきましょう。

●進行役

グループワークの進行、レジュメに基づくステップ学習・ホームワークの説明、全体的な進行を行います。グループワークでは、ホームワーク報告・発言に対し、受講者に肯定的なフィードバックを行います。

□■進行役の視点■□

- ① 受講者の行動観察(表情・視点の変化など) & いい所探しをします。受講者への肯定的な注目とねぎらいを心がけます。
- ② 話しやすい雰囲気&安心感を持ってもらえるように努めます。
- ③ 指導する立場ではありません。
- ④ 受講者自身が、やってみて、気づいて、話して、身につけていくことを促します(体験重視)
- ⑤ 進行役自身が、“ティーチャー・トレーニングは決して万能な方法ではない”ことを知っておきます。



●サブリーダー

グループワークでは、進行役と共に受講者への肯定的なフィードバックを行います。

□■サブリーダーの視点■□

- ① 受講者の行動観察(表情・視点の変化など) & いい所探しをします。受講生への肯定的な注目とねぎらいを心がけます。
- ② 必要に応じて場を盛り上げたり、各回の目的に沿った発言や、受講者に代わって質問をしていきます。

※例えば、特定の受講生が話すことが多くなり、その他の人の意見が出にくい場合などに、サブリーダーがわざと反対意見を出すなどして、意見交換のきっかけを作ることもあります。



②プログラムの内容について

●プログラムの構成

最も基本となる方法は下記の表のとおり、全 10 回で行うものですが、長崎県では短縮版として全 6 回で実施してきました。園や、それぞれのグループに合ったものを選択してください。また、6 回版プログラムの中から「注目の外し方」と「警告とペナルティ」を削除し、「指示の出し方」と「環境調整」までの内容を 6 回のプログラム内容に構成しなおして実施しても効果が得られています。プログラム自体については、専門的な書籍が出ていますので、そちらをご覧ください。

概要	10 回版 パARENT・トレーニング メンバー：4～6人 1 時間～1 時間 30 分 2 週間に 1 回	6 回版ティーチャー・トレーニング メンバー：4～6人 2 時間～2 時間 30 分 2 週間に 1 回
1	講 話：AD/HD の誤解と理解について H W：子どもの行動-対応- 結果どうなったかシート	講 話：ティーチャー・トレーニングとは？ 行動観察について H W：行動観察シート
2	講 話：子どもの行動の観察と理解 H W：ほめた行動-どうほめたかシート	講 話：行動分析について H W：行動のタイプ分けシート
3	講 話：子どもの行動へのよい注目の仕方 H W：行動の 3 つのタイプ分けシート	講 話：肯定的な注目の仕方・環境調整 (スペシャルタイムの紹介含む) H W：ほめ方シート
4	講 話：親子タイムと上手なほめ方 H W：親子タイムシート	講 話：子どもが動きやすい指示の出し方 H W：指示の出し方シート
5	講 話：ふりかえり H W：親子タイムシート	講 話：注目外し・警告とペナルティ H W：行動観察シート(改) など
6	講 話：指示の出し方 H W：指示-子どもの反応-次にどうしたかシート 親子タイムシート	講 話：ティーチャー・トレーニング全体のふり かえり H W：なし
7	講 話：無視の仕方 H W：無視した行動-どう無視したかシート 親子タイムシート	
8	講 話：トークンシステムとリミットセッティング H W：トークン表作り・限界設定シート	
9	講 話：ほめ方、無視の仕方、タイムアウトのまとめ H W：トークン表作り・タイムアウトシート ほめた行動-どうほめたかシート	
10	講 話：学校との連携・全体のまとめとこれから H W：訓練後評価セット	
11	修了パーティ	

※10 回版については岩坂(2004)からの引用

●1回分の流れ（例）

時間	内容	スタッフの動き
事前の準備	ホームワークの回収 出欠の確認	HWの回収 HWのコピー
プログラム実践	グループワーク	
	ブレイクタイム	お茶の準備など
	ステップ学習・HW説明	
事後にすること	参加された方についての振り返り	

※グループワークの時間計算方法
 （1人発表+コメント=6~10分）×人数
 ※欠席者が出ることを考え3人以上が望ましい。



③受講対象について

- ・全6回継続的に参加出来る方。
- ・ホームワーク（気になる行動をする子ども1名との継続的な関わりについての記録、以下HW）への取り組みが可能な方。
- ・HW対象児は全6回を通して同一であること。
- ・対象児の年齢は、基本的には言語理解の出来る3~6歳。
 ※後半のテクニックである指示の出し方の回などは言語でのやりとりが主となるため。
- ・グループの構成は、ある程度年齢や状態像が揃っていたほうが、共感しやすくなるようです。しかし、タイプが異なるお子さんが対象でも、互いの学びの場となります。

④ホームワークの扱い方

※個人情報となるので、慎重な管理、破棄が必要。事前に受講者と話し合っておこう。

- ・回収方法
- ・保管方法(安全なのは、発表者が回収)
- ・コピーをとって他のメンバーに配布するかどうか

⑤受講者の反応を確認する方法

プログラムについての反応(理解度や満足度)を知りたいときには、各回のプログラムの後に「ふりかえりシート※」を書いてもらうと良いかもしれません。または、各回のプログラムの最後に一言ずつ感想を聞いても良いかと思えます。 ※参考資料参照

(2) 実践例(時間、場所、回数、先生たちの反応)を参考にしよう

①タイプ1: 通常の勤務の後に行う

進行役: 園内の先生(スタッフは進行役のみ)

対象: 3~5歳児担任の保育士4~5名

回数: 2週間に1回 全6回

時間・場所: 就業後の教室 18:00~20:00。※会場の準備やHWコピーなどはみんなで行う。

- ◎ わからないときは、進行役に質問、相談ができる。
- ◎ 担当している先生だけでなく、園全体で一貫した対応を考えられる。
- ◎ 子どもだけでなく、先生同士が日常的に、お互いのすてきな行動へ注目し始め、伝えあうようになった。情報共有が活発になった。

②タイプ2: 昼休みに行う

進行役: 園長先生

対象: 3~5歳児担任の先生3名

回数: 2週間に1回 全6回

時間・場所: 空いているお部屋 お昼寝の時間 ※ステップ学習は読んできてもらう。

タイプ1でのメリットに加え、

- ◎ 休み時間に行うので、1回の時間が短時間となるので、比較的先生方の負担が少なくなる。

園内でプログラムを行う場合、起こりやすいこと

☆行動観察できたつもりになりやすい。

日頃から知っている間柄なので、つい「先生も知っているよね」「きっとあの行動のことだよ」と話が通じやすいため、行動観察ができたつもりになってしまうことがあります。

グループワークの間は、行動観察が促されるよう、なるべくHWの記録をもとにしたコメントをしてもらいましょう。

☆つい、いつもの役割が出てくる

例えば進行役と受講者が、日頃は園内で上下関係にある場合、どうしても普段思っていることがコメントの中に出てきやすかったり、反対に言いにくかったりすることがあります。進行役側は意識していなくても、受講する側が普段の関係を意識していることも…。そういう時は、進行役自身が、この場ではティーチャー・トレーニングの進行役であるということ意識しておくことが大切です。

(3) 参加希望者を募ろう

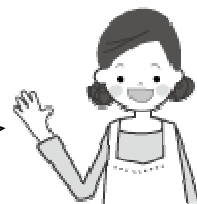
① 進行役をされた先生から聞くお話

※実際のお話を少し変えて載せています。

進行役経験者の方からお話を伺うと、下記のようなきっかけや、方法で募ったようです。参考にしてみてください。

☆進行役経験者 Aさん

まずは、自分がやっていることを親しい先生に話してみて、興味を持ってくれた人に集まってもらいました。
初めは私も慣れていないし、少人数で始めて正解でした。



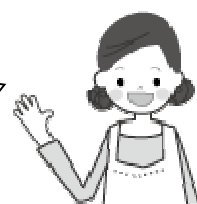
☆進行役経験者 Bさん

私は、子どもたちとの関わりに悩まれている先生に、「こんな方法があるんだけどやってみない？」ってお声かけしました。そしたら他にも悩んでおられた先生がいて、3人の先生を対象にスタートしました。



☆進行役経験者 Cさん

私も、ずっと気になっていた先生がいたので、その方をお誘いしたかったんですが…。相談を受けていたわけではなかったし、お一人だけお誘いすると、自分の保育を否定されたような気持ちになるんじゃないかな？と思ったので、同じ年齢担当の先生みなさんにお声かけしてはじめています。
今はまだ、その方は参加いただけていませんが、少しずつ「良かったよ～」の聲が広まればその先生も参加して下さるかな？って、思っています♪



☆進行役経験者 Dさん

うちは、職員、全員が受けるように計画中です～。まずは、3～5歳児担当の先生に受けてもらっています。私も慣れていないので…。
視点を学んでもらうことが目的なので、0～2歳児担当の先生には、3～5歳児さんのお部屋に入ってもらって時間を作って参加してもらおうと思っています♪



2. フログラムを使って教室を開いてみよう

(1) 各回の進行役としてのポイントを理解しよう。

第1回	<p>■目標■ ティーチャー・トレーニングでしていくことを確認しよう</p>	
	<p>対象児紹介 参加動機紹介</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもとの関係で困っていることや、ティーチャー・トレーニングへ参加しようと思ったきっかけについて紹介してもらおう。状況が分かりにくかったり、これから話を共有していく中で他の受講者も知っていたほうがいいなと思うことは説明を求めよう。 受講者の悩みから、悩んでいるのは1人じゃないことをグループの中で実感してもらい、安心感を持てるようにする。 これから子どもを肯定的に見ることを促すためにも、受講者を肯定的に見守る。
	ステップ学習	<ul style="list-style-type: none"> ティーチャー・トレーニングは問題行動の改善に焦点をあてるものではなく、肯定的なコミュニケーションを目指すものであることを説明。 ほめた方がいいとわかっても難しいので、まずは客観的に行動を見ることから始めることを伝える。
第2回	<p>■目標■ 行動を観察することによる違いを実感しよう</p>	
	行動観察シート	<ul style="list-style-type: none"> どういった対応をしたかではなく「行動を観察できているか」に注目する。 記録が具体的でなかったら説明を求め、それを書き留めることで関わりのヒントが見えてくることを伝える。 <p>「行動観察」をしたことで、どこがうまくいったか、もう一工夫するなら…と、自分自身で子どもとの関係を変えていけるヒントが得られることを実感してもらおう。</p>
	ステップ学習	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに違いがあるが、特に発達障害のある子どもは感覚の違いに生活のしづらさを抱えているため、違いを知ることが、こどもの気持ちに寄り添うことになることを知る。 行動の前後をふりかえり、変えられそうなところから変えてみることを、自分自身で自分＆こどもに合ったやり方を見つけていくことを説明する。
第3回	<p>■目標■ 自分自身の見方を知ろう&注目のパワーを活用しよう</p>	
	タイプ分けシート	<ul style="list-style-type: none"> 行動の前後を見たり、一連の行動をどこで区切るかで、子どもへの評価が変わることに気づいてもらおう。 それぞれの異なった価値観で子どもの行動を見ていること、自分の価値観が全てではなく、価値観が変われば子どもの評価が変わることに気づけるよう促す。
	ステップ学習	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの好ましい行動を引き出すために、注目のパワーが活用できることを知ってもらおう。 肯定的な注目について、注目のバリエーション、ほめるポイントやタイミング等を紹介する。

第4回	<p>■目標■ 注目のパワーを実感しよう&子どもに伝えるために出来る工夫を考えよう</p>	<p>ほめ方シート</p> <ul style="list-style-type: none"> • よい注目が、子どもに与える力と、そのことが自分自身にどう影響しているかに気付けるよう促す。(プラスの循環の自覚) • 好ましい行動をほめているか等、ほめ方のポイントやルールを確認していく。 • 他の受講者を巻き込みながらグループ全体で発表者をほめ、ほめられる嬉しさや楽しさを感じてもらう。 <p>ステップ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもの好ましい行動を引き出すために、伝わりやすい指示を出すことを理解してもらう。 • 子どもの立場に立つことで、伝わるためのヒントが得られやすくなることを伝える。 • 子どもが動きやすい指示の出し方について説明する。
第5回	<p>■目標■ 子どもの問題行動も冷静に対処出来ることを知ろう&子どもと自分の変化を実感しよう</p>	<p>指示の出し方シート</p> <ul style="list-style-type: none"> • ほめるとセットになっているか等、指示の出し方を確認していく。指示の出し方で、子どもも大人も気持ちよく過ごせることを実感できるよう促す。 • 指示を出しっぱなしにしないことでほめる機会が増えることを感じてもらう。 <p>ステップ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> • これまでの対応で好ましくない行動や許しがたい行動がおさまらない場合には、注目外しや警告とペナルティのルールを意識して冷静に対応することで、より伝わりやすくなることを説明。(ただし、子どもにとって厳しい対応となるので、十分な注意が必要。) • 対応に困ったときには、客観的行動観察に戻ることを伝える。
第6回	<p>■目標■ 自分の頑張りに目を向けよう！</p>	<p>行動観察シート(改)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 観察できていること、T.T.を通して学んだことの中で実践していること、受講者や子どもの変化等を見つけ、それを伝える。 • 今までの受講者の頑張りを認め、これからも続けていきたい♪と思えるよう励ましの言葉をかける。 <p>ステップ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> • これまでの6回の研修を通し、意識して子どもとの関わりを変えたことで、プラスの循環に持っていくことができた自分自身の頑張りに目を向けることを伝える。 • 今回の子どもとの関わり方が、保護者との関係にも広げられることを伝える。

(2) 資料を準備しよう

参考資料にすべての回の資料を掲載しています。どうぞ活用ください。資料は一例ですので、進行役となる方が実施しやすいレジュメを作成してください。

<必要な資料>

開催前	事前アンケート
開催中	各回のレジュメ ホームワークのシート
	※ 振り返りシート（任意） ※ 全体の感想（任意）
開催後	

(3) グループワークをしてみよう

①グループワークについて

グループワークは、1つ前の回に出されたHWを発表し、メンバーが意見や感想を交換する時間です。いろいろな方法がありますので、いくつか紹介します。試してみて、進行役そして受講者に合った方法を見つけてみてください。

※第1回目は、HWはありませんが、事前のアンケートをもとに、参加動機や、対象児の紹介をしてもらいます。

●進行形態

- a HWを発表して、発表後はみんな拍手で受講者のがんばりを労う。HWをするだけでも変化は起こり、受講者自身が試行錯誤しながらより良い対応を見つけていく。
- b 進行役が、受講者間の意見交換を重視する。「〇〇先生の発表を聞いて、□□先生はどう思いましたか?」「〇〇先生の発表の、ここがいいなあ〜!と思った所はどこでしょう?」等。
- c 進行役が主に話し、受講者の気持ちを引き出すもの。「本当は〜したかったですね」と返すことで、受講者の気持ちを大事にする。
- d 進行役が「こうしてみるとどうでしょうか?」等、アドバイスをしたり、指示を出したりするもの。受講者が質問をする役、進行役が答えを出し、評価するような会になってしまう可能性があるが、具体的に方法を提示することができる。

②グループワークで大切なこと

■受講者の保育観を尊重すること

進行役は自分の保育観を主張するのではなくて、受講者の保育観を尊重し、その中でうまくいきそうな部分を見つけていきます。

■プログラムの順序は守る

お子さんへの対応に困っておられるときほど、好ましくない行動や許しがたい行動への対応テクニックである「注目はずし」や、「ブロークンレコードテクニック」、「警告」、「ペナルティ」を早く知りたい！と思うことがあります。

進行役も、HW の中で気になる行動が出てきたときに、つい、こんな方法がありますよ〜とお伝えしたくなることもあるかもしれません。しかし！そこはガマン。

まずはしっかりと行動観察をすること、そして、好ましい行動を見つけることが先です。

(4) ステップ学習をしてみよう

①自分自身や他の先生の体験を具体例として伝えてみよう。

ステップ学習では、テーマ学習と、次回のホームワークの説明を行います。レジュメをそのまま読んでOKですが、先生が体験した具体例等を取り入れてみると、より参加している先生方にとって、保育現場での実践の想像がつきやすくなるようです。先生方のご経験を活かしてみてください♪

②受講者の側を経験したからこそわかる、参加にあたっての不安や心配の気持ちを伝えてみよう。

(5) よくある質問



わたしが進行役だなんて！ 何もアドバイスできないし！

仰る通り、進行役にはアドバイスはできません。関わりのヒントは、進行役が持っているわけではなく、行動観察と、実践している先生方の気づきの中にあります。答えを出したり、アドバイスをするのではなく、先生方に寄り添っていきましょう。

ホームワークのやり方など、「これでよかったの??」と聞かれたらどうしよう!? 私が答えるべき?!



まずは、「良かったのかどうか」は置いておいて、他のメンバーに感想や良いところをお尋ねしてみましょ。メンバーはそれぞれの考えで「それでいいんじゃないの?」等など言ってくれるかもしれません。進行役が個人的な考えで「これで良い」「これではダメだ」と答えを出すというよりは、根拠のある自信につなげるために、また、少し復習したほうがいいのか?と思ったときにも、「テキストに戻ってみましょか。」と、前回のテキストを引っ張り出して、メンバー全員で1つ1つ確認してみると良いかもしれません。



HWについてコメントしてもらおうと、発表してくれた受講者に否定的な発言が出てくる可能性があります。

オリエンテーション等で受講者の雰囲気を見ながら、否定的な発言や指導的な発言が出やすいと思われるときには、グループが始まる最初の1分ほどで毎回ルール(受講者の保育観を尊重すること、発表者を否定しないこと等)を確認しておくことにすると良いかもしれません。

ホームワーク発表の時間配分がなかなかうまくいかず、人によって差が出来てしまいます。



最初に持ち時間の確認をしておくことと、目に見えて自分の時間がわかるようにタイムタイマーなどを示すとよいかもしれません。もし、受講者によって話す時間が大幅に違ったときには、次の回で前回、短かった人を前半の順番にするなどの配慮があると良いかもしれません。



すごく緊張します！

どうしても緊張してしまうことはあります。プログラムを実践する前に5～10分、「ウォーミングアップ」を取り入れてみるのはどうでしょうか。進行役にとっても、参加する方々にとってもリラックスできる時間を作ってみると良いかもしれません。回を重ねるごとに少しずつ、進行役の緊張もほぐれてきます。

(例)

子どものいい所探し：対象児の行動でかわいいな、良かったなと思ったエピソードを話してもらう。

リフレミングゲーム：対象児や先生などの短所を長所書き換えてもらい、見方を変えることを体験してもらう。(ホームワーク『行動のタイプ分けシート』を発表する回に取り入れることをお勧めします♪)

ほめほめゲーム：前回から今回までの間にあった、先生のがんばりエピソードを発表してもらい、メンバーで労う。

※進行例は、参考資料参照。

3. 教室を開いた後のフォローについて

教室修了後の先生方の研修内容の定着・ふりかえりを目的として、2～4 カ月の間で再度集まる機会を設けてみるのも良いようです。参考資料⑥「行動観察シート（改）」を記入してきて頂き、グループワークを実施する形式と、HW は求めず、座談会の形式の2パターンで実施する場合などがあります。

前者の場合は行動観察や循環図を基本に振り返りができ、後者の場合は、様々な悩みが語られる場として機能しているように思います。忙しい園生活の中では、ついついそれまでのやりとりに戻ってしまうことも…。でも園内で定期的にフォローアップを行うことができると、保育現場の流れに沿った丁寧なケアが期待できます。

プログラムの実施をきっかけとして、日常なお互いのフォローにつながれば幸いです。

4. 参考文献

『AD/HD 児へのペアレントトレーニング』（2004）

岩坂 英巳、井瀬 知美、中田 洋二郎

『こうすればうまくいく発達障害のペアレント・トレーニング実践マニュアル』（2009）

上林靖子 監修 中央法規

『読んで学べる ADHD のペアレントトレーニング むずかしい子にやさしい子育て』（2002）

シンシアウィットム 著作 上林靖子・中田洋二郎他 訳 明石書店

5. 配布資料のもくじ

1. 受講者事前アンケート／子どもの行動を観察しましょう・・・・・・・・・・P15～16
2. 第1回レジュメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P17
第1回ティーチャー・トレーニングとは？ ～進め方とお願い～・・・・・・・・P18～20
第1回ステップ学習① 「行動観察と理解について」・・・・・・・・・・P21～25
第1回ホームワーク「行動観察シート」・・・・・・・・・・・・・・・・P26
第1回ふり返しシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P27
第1回ティーチャー・トレーニング（ポイント）・・・・・・・・・・P28
3. 第2回レジュメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P29
第2回ステップ学習② 「行動観察から行動分析」・・・・・・・・・・P30～33
第2回ホームワーク「行動のタイプ分けシート」・・・・・・・・・・P34
第2回ふり返しシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P35
第2回ティーチャー・トレーニング（ポイント）・・・・・・・・・・P36
4. 第3回レジュメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P38～43
第3回ステップ学習③ 「肯定的な注目の仕方」・・・・・・・・・・P38～42
第3回ホームワーク「ほめ方シート」・・・・・・・・・・・・・・・・P43
第3回ふり返しシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P44
第3回ティーチャー・トレーニング（ポイント）・・・・・・・・・・P45
5. 第4回レジュメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P46
第4回ステップ学習④ 「子どもが動きやすい指示の出し方」・・・・・・・・P47～53
第4回ホームワーク「指示の出し方シート」・・・・・・・・・・P54
第4回ふり返しシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P55
第4回ティーチャー・トレーニング（ポイント）・・・・・・・・・・P56
6. 第5回レジュメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P57
第5回ステップ学習⑤ 「注目外し」「警告とペナルティ」・・・・・・・・P58～63
第5回ホームワーク「行動観察シート（改）」・・・・・・・・・・P64
第5回ふり返しシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P65
第5回ティーチャー・トレーニング、警告とペナルティ（ポイント）・・・・P66～67
7. 第6回レジュメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P68
第6回ティーチャー・トレーニングのふりかえり・・・・・・・・P69～74
第6回ふり返しシート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P75
8. ティーチャー・トレーニング 全体の感想・・・・・・・・・・P76～77

《参考資料》

9. トークンシステム（がんばり表）
環境調整アイデア集
10. ウォーミングアップ
子どものいい所さがし
リフレーミングゲーム
ほめほめゲーム

平成 年度 ティーチャー・トレーニング
受講者事前アンケート

下記の質問にお答え下さい。

ふりがな		ふりがな	
氏名		所属	
職種		経験年数	年

○ティーチャー・トレーニングへの参加動機を教えてください。

○ ティーチャー・トレーニングでは、現在あなたが関わっている子ども（園等で受け持っている子ども）1人を対象にして、ホームワーク（グループワークで発表します）を行っていきますので、今回対象としたお子さんの特徴（性格・行動など）を教えてください。なお、裏の<子どもの行動を観察しましょう>についても、今回対象としたお子さんの行動について記載してください。

ニックネーム		年齢	
診断名の有無	有 ・ 無		
	診断名 ()		
特徴			

○ティーチャー・トレーニングに期待すること。または参加することによって、自分や子どもがどのようになっていけばよいと思うか教えてください。

<子どもの行動を観察しましょう>

記入年月日【 年 月 日】
記入者の名前【 】
お子さんのニックネーム【 】
年齢・性別【 歳 / 男・女 】

*ホームワーク報告などでこのニックネームで話を進めます。

現在、お子さんの行動について、対応に困っていることについておうかがいします。
特に、セッション中にとりあげてほしい1つの行動についてお答えください。

- Q1. それはこういった場面・状況で起こりますか？
- Q2. その状況で、子どもはどのようなことをするのですか？
- Q3. その行動が起こった時、あなたはこういった対応をしますか？
- Q4. それに対して子どもの反応はどうなりますか？
- Q5. そういったやりとりは、結局どうやって終わりますか？
- Q6. このような困った行動はどのくらいの頻度で起こりますか？
- Q7. このような困った行動に対して、あなたはどう感じますか？



ご協力ありがとうございました♪

平成 年 月 日 () までに、 まで提出をお願いします。



第1回 ティーチャー・トレーニング

【今日の目標】

- 自分や他のメンバーを知ろう。
- “行動”を観察していくことを押さえよう。
- グループワークで学んでいくことを確認しよう。

1. オリエンテーション

ごあいさつ・スタッフ紹介

受講者の紹介

ティーチャー・トレーニングって何だろう？

全体スケジュールについて

進め方とお願い

楽しく、安心できる雰囲気を進めて
いきたいと思います。どうぞリラッ
クスして参加してください。

話す、聞く、質問する、そして…
とにかく一緒にやってみましょう♪

2. グループワーク

対象児紹介

困っていること、学びたいことを伝えよう

3. ブレイクタイム



4. ステップ学習①

行動観察と理解について

ホームワーク①行動観察シートの説明



次回は ♡ ♡ ♡ ♡ ♡
月 日 () ♪

5. 今日のまとめ

ふりかえりシート記入



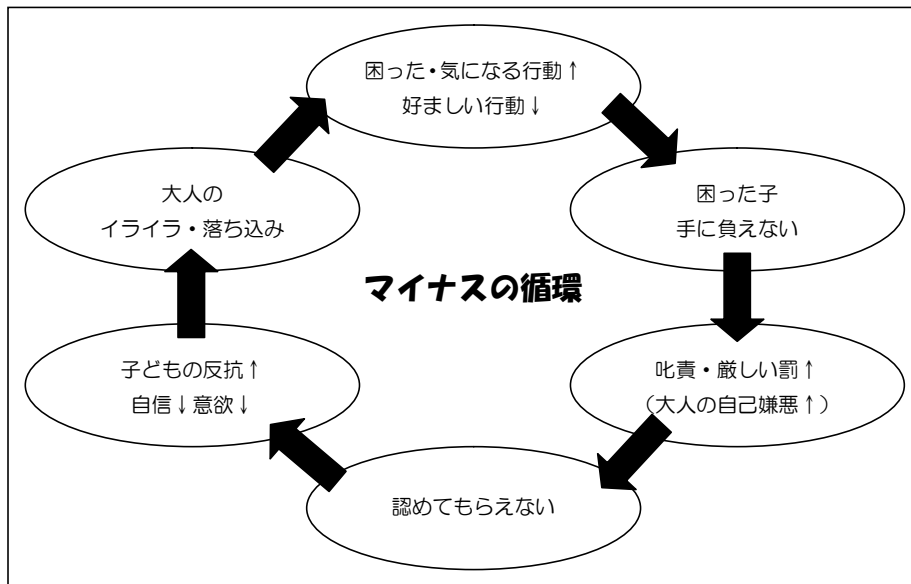
ティーチャー・トレーニングとは？ ～進め方とお願い～

1. ティーチャー・トレーニングとは？

ティーチャー・トレーニングは、AD/HD のお子さんを持つ親を対象に、アメリカを中心に発展してきたプログラム「ペアレント・トレーニング」の技法を、子どもたちにとっての「最高のサポーター」である、保育・教育者へ普及しているものです。このプログラムでは、“気になる行動・困った行動をするお子さん” や、“発達に課題のあるお子さん” に関わっておられる、保育士・幼稚園教諭の先生等を対象にしています。

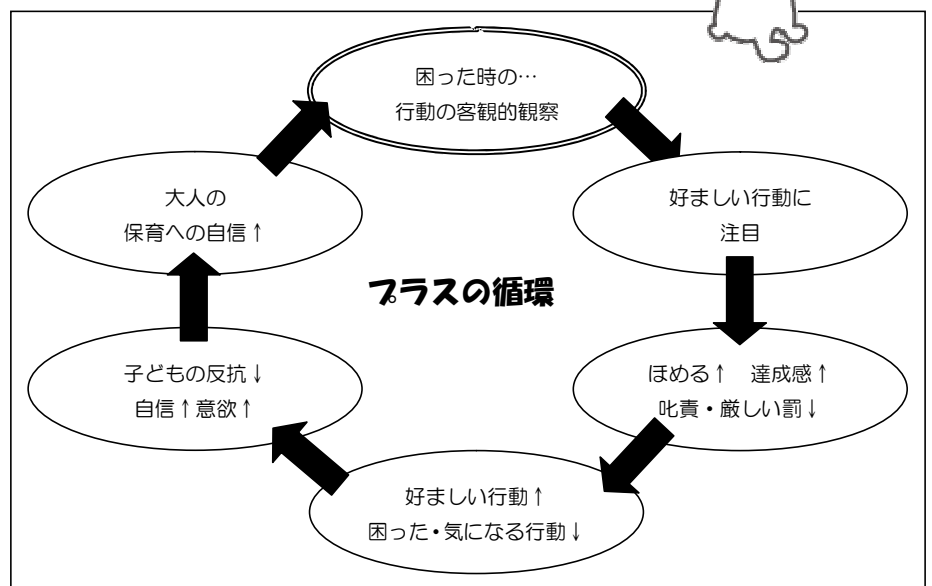
発達に課題を持つことは誰のせいでもありません、ティーチャー・トレーニングを通して、先生方と子どもたちが共に自信を取り戻し、より良い関係で園生活が送れるようになったらいいなあ…そういう思いがこもったプログラムになっています。

2. 気になる行動・困った行動をするお子さんと、先生の間を関係を考えてみよう



園や家の生活の中で、ややもするとやりがちなのは…マイナスの循環。「プラスの循環」「マイナスの循環」普段はどちらが多いかニヤ？めざすのは、プラスの循環にゃ！

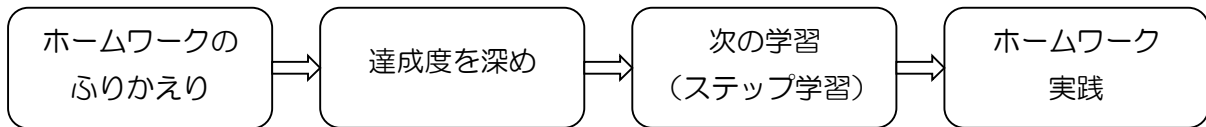
プラスの循環を目指しましょう



3. 進め方

全体スケジュールにあるテーマに沿って、子どもの行動を理解し、行動療法に基づく効果的な対処法を学び、話し合い、ホームワーク（宿題）として園で練習して、よりよい子どもとの関係作りと、子どもの好ましい行動の増加を目指します。やり方は簡単ですが、ある程度の努力と時間は必要です。ステップ・バイ・ステップでゆっくりと進みます。

研修への参加は先生のみですが、ホームワークを園で実践することで、子どもたちにも参加してもらうことができます。



4. ティーチャー・トレーニングに期待できること・できないこと

期待できること



行動療法

子どもの「行動」に焦点をあて、その行動の特徴を理解し、より効果的な対処法を一貫して行います。そうすることで、よい行動を増やしたり、困った行動を減らす方法を学び、毎回のトラブルを少なくします。

子どもと先生の相互関係

「良い行動⇔ほめられる」の関係を築くことで、先生のストレス軽減や、子どもの自信（セルフエスティーム）の回復がみられます。

サポート

みんなで学習することで、メンバー同士の共感と支えあいが出まれ、先生としての自信がアップします。「困っているのは私だけじゃないんだ」「あの子だけじゃないんだ」と気づかれる先生もいます。日頃の保育のアイデア交換もしていきましょう。



期待できないこと

- × AD/HD など、障害の主症状を直すことは出来ません。
- × 学んだことを、日常で用いずに子どもを変えることは出来ません。



5. 参加にあたってのお願い

■ 遅刻・欠席はなるべくされないようお願いします

T.T のセッションは、ステップ・バイ・ステップでゆっくり進行し、それぞれのステップは次の段階の基礎になっています。そのため、毎回参加を原則としています。また、グループで行いますので、遅刻もなるべくしないようにご協力をお願いします。

■ 園での練習（ホームワーク）へご協力をお願いします

ティーチャー・トレーニングの中で、実はこのホームワークが最も重要です。セッションでご紹介することは“道具”に過ぎません。そして道具は、使ってみないと使い心地が分かりませんし、使い続けることに意味があります。どの方法が自分に合うか、また、お子さんに合うか、ホームワークを通して一緒に探してみましょ。日常の業務にプラスすることは、とても大変だと思いますが、毎回の提出をよろしくお願いします。

■ プライバシーについては、十分な配慮をお願いします

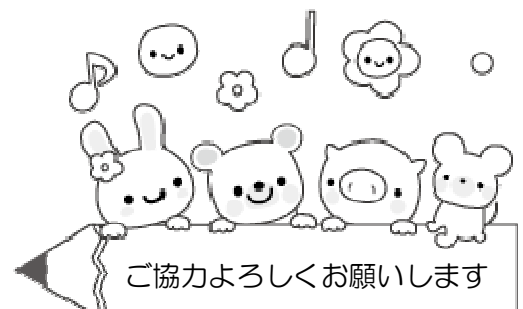
この場で話す内容には、個人情報など大事なプライバシーが含まれます。お互い安心して話が出るためにも、秘密の厳守をよろしくお願いします。また、保育観・これまでの体験・考え方はそれぞれ違って当然です。お互いを尊重して、お話がうかがえる雰囲気作りにご協力をお願いします。

講話の内容については、他の先生方や保護者の方にも話して、協力して頂けると素敵です。是非多くの方に、お伝えください。

■ 順番通りにプログラムは進みます

プログラムの後半には、「指示の出し方」「注目の外し方」「制限の設け方」…いくつかテクニックが出てきます。困っていればいるほど「後半の内容が先に知りたい!」と思われる方も多くいます。でも、そこから始めてしまうことは、かえって危険です。まずは基礎となる「行動観察」や「ほめるーほめられる」という、子どもとの関係に必要なことをじっくり進めていきましょう。

是非周りの方に伝える時も、順番通りにお伝え下さい。



皆さんと協力しながら、皆さんのスタイルにあった会を作って行きたいと思っています。
どうぞ遠慮なさらず、どんどんご意見をください。よろしくお願いします。



行動観察と理解について

1. 子どもの行動を理解しよう

子どもの行動の背景にはいろんなことが考えられます。そして、これらの色々な状況が折り重なって相互作用を起こし、結果的に子どもの行動に影響を与えています。

子どもの行動に影響を与える4つの要因

①子どもの特性

集中力の持続時間・物事への反応の仕方・刺激の受け取り方・コミュニケーションのとり方
対人関係スキル など…

②先生の特性と対応

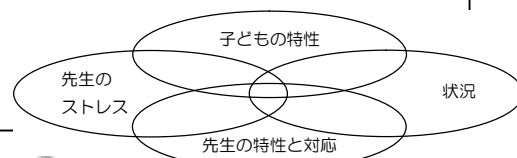
せっかちさん・のんびりさん・細やかさん・大雑把さん・声の高さ・声かけ など…多様！

③先生のストレス

寝不足・身体面の疲労・他の抱えている仕事が多い など…

④状況

行事（運動会・お遊戯会）前・卒園卒所前 など…



4つは重なり合い、相互作用を起こしていることも多い…

→ **STOP犯人探し！まずは行動を観察しましょう**



子どもの行動

2. 行動とは？

実際に

- ①見える
- ②聞こえる
- ③数えられる

こういう具体的なものを、
このT.Tでは「行動」と呼びます。

「落ち着きがない」「優しくする」「もう少し」「いつも」「きちんと」などなど…私たちが普段よく使う言葉は、人によってそれぞれ感覚が異なります。それは大人同士でも、対子どもでも同じです。こどもの行動、先生の対応を客観的にみて記録していくことが大切です。

★ **考えてみよう** ～これって“行動”？～ 行動と思うものに、○をつけてみましょう。

- (1) 走らない 【 】
- (2) 優しい 【 】
- (3) 文句を言う 【 】
- (4) 落ち着かない 【 】
- (5) 歩く 【 】
- (6) Aちゃんはずっと、おやつの前に手を洗わない 【 】

ヒント

「～しない」は「～している」「～する」に表現を変えてみよう。そうすると行動になるよ♪



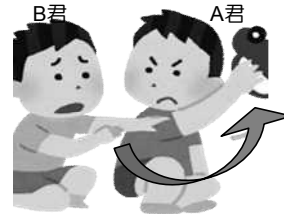
考えてみよう～“行動”を意識すると？～

ペアになって、絵の場面をみながら「見える・聞こえる・数えられる」を意識して書き換えてみよう♪

(1) A君がB君にいじわるをした。



()



(2) 先生がC君を注意した。



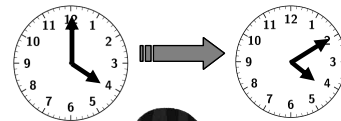
()



(3) Dちゃんはずっと絵本を読んでいた。



()



ヒント

(1) は「見える」、(2) は「聞こえる」、
(3) は「数えられる」を意識して書き換えてみよう♪



客観的な行動観察や具体的に記録をとる作業は、はじめはなかなか馴染みにくいものかもしれません。

「見える」 …具体的な行動を書いている？

「聞こえる」 …先生やこどもが発したセリフはなかったかな？

「数えられる」…回数や時間などが曖昧になっていないかな？

記録したものを見直しながら確認することで、段々とコツがわかってきます♪

3. 行動に注目すると、どうなる？

行動の客観的な観察、それを記録することの積み重ねにより、今後のかかわり・子どもに伝わりやすい具体的な声かけのヒントが見えてきます。

■「してほしい行動」を具体的に子どもに伝え、子どもも理解しやすい、変わりやすい♪

例えば…

お友達には 優しく しましょうね

やさしくて、どうすればいいのかな？
僕、ちゃんと優しくしてるから、
関係ないもんね～

「やさしさ」は目に見えませんし、人によって異なりますね。

そんな時は…

お友達が 泣いていたら
「どうしたの」と声を
かけ しましょうね

このように言うと、どうでしょう？
へえ～、そうすればよかったのか！
それなら、僕にも出来そう

考えてみよう～子どもに伝わりやすいのは？～ 伝わりやすいと思う方に○をつけてみましょう

- (A) 「片付けましょう」 【 】
- (B) 「絵本を3冊、本棚に入れましょう」 【 】

<例①>あいまいな言い方を避け、具体的な表現で言った場合…

- 「お友達に優しくしようね」⇒「絵本を貸してあげてね」
「それ片付けて」⇒「コップ片付けて」
「ちゃんとしなさい」⇒「石鹸で手を洗おうね」

<例②>短く、具体的に言った場合…

- 「手を洗ったら、椅子に座って、おやつを食べます。」
⇒「手を洗いましょう」
⇒「椅子に座りましょう」
⇒「おやつをたべようね」

他にも、伝わりやすい言い方のポイントはたくさんあります。詳しくは第4回ステップ学習『子どもが動きやすい指示の出し方』でお伝えします。お楽しみに♪

■子どもの「困った行動」だけを取り出して見ることが出来るため、子どもの人格を否定しないで済む

例えば…

なんて悪い子なの！
も～ダメじゃないの！
(あの子は〇〇な子)

先生は私が嫌いなんだ…
私は悪い子なんだ…

人格の否定になってしまっています。そんな時は…

↓

お友達を叩いたら
いけませんよ

このように言うと、どうでしょう？
だから先生怒ってるのね
いけない、いけない

先生も子どもを嫌いにならなくて済みますし、子どもも先生に嫌われていると思わなくていいですね。

考えてみよう～人格に触れない注意は？～ 困った行動だけが伝わる言い方に〇をつけてみましょう

- (1) 「どうしていつもあなたはそうなの！」 【 】
- (2) 「もう！Aちゃんダメでしょう！」 【 】
- (3) 「そんなことする子は、先生嫌いよ！」 【 】
- (4) 「そんなことする人は、先生一緒におやつ食べたくないなー！」 【 】
- (5) 「Bちゃん、教室で走るのは危ないよ」 【 】
- (6) 「危ないから、走るのをやめて歩きましょう」 【 】

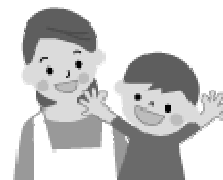


客観的行動観察 = 行動の前 + 行動 + 行動の後

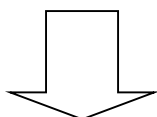
前	行動	後
行動の起こった状況は？ いつ？どこで？ どんな場面？	持続時間・程度・頻度 それによる本人への影響 それによる周囲への影響	その行動への対応 その結果、子どもの行動は どうなったか？

行動の前後を含めて観察することで…

- ① 子どもの行動の意味が分かってくる
- ② 気になる行動が起こらないための、工夫が見えてくる
- ③ 次に何が起こるか、分かるようになってくる
- ④ 「こんな時はこうすればいいかも！」と思えるようになってくる



今日のホームワークは、「行動観察シート」です。とりあえず、やってみましょう♪



ホームワーク1【行動観察シート〈子どもの行動—対応—どうなったか（結果）観察シート〉】

記入者名 ティーチャー・トレ子
 子どものニックネーム Aちゃん (4歳)

日付	状況・場面	子どもの行動	あなたの対応	子どもの反応	やりとりの終わり方	行動が起こる頻度	どう感じたか？
○/△ (口) 曇り 肌寒い	部屋の中で、友達とブロックで遊んでいたとき。	友達が遊んでいるおもちゃを欲しがり、手に入らないと大声で泣き出す。	「お友達に貸してと 言ってごらん」と声をかけた。	大声で泣き続けた。	「泣きやみなさい。貸してって言いなさい」と言うが、おもちゃを投げ捨てて、部屋から出ていきベランダでも大声で泣いていた。	1週間に3～5回	大声で泣かなくてもいいのに…。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「見える・聞こえる・数えられる」を意識して、エピソードが目浮かぶように書いてみましょう♪</div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">実際に先生が言ったセリフなども書いて下さい</div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">そのときに感じた、先生の正直な気持ち「またかぁ～」 「もう！自分で言ってよ！」など書いてみてください。</div>		

今回は、このホームワークに書いたことを紹介して頂こうと思っています。お子さんを知らない先生方にも、エピソードが目浮かぶように記録をすると…それが自然と上手な行動観察になっていきます。ポイントは、エピソードが目浮かぶように…です♪
 ※子どもの前で書かずに、後から思い出して書いてみましょう！

今日のポイント

■ ティーチャー・トレーニングについて

(×) 困った行動を減らすことで、良い行動を増やす。

(○) 良い行動を増やすことで、困った行動を減らす。

大切にしたいのは、「ほめる—ほめられる関係」を築くこと（プラスの循環）

そのためにまずは「行動観察」を行います。

■ 行動観察について

子どもの行動に影響を及ぼすものは多様…STOP 犯人探し！子どもの行動を観察します。

行動とは、「見える・聞こえる・数えられる」ことのように具体的に表現できるもの。

「～しない」は、「○○している、○○する」で表現します。

ポイントは…困った行動の前後を含めて、冷静に客観的に観て記録する！

少し離れて客観的に眺めて見る事で、対応の手がかり、子ども理解の手がかりが見つかります。



ホームワーク 1 「行動観察シート」子どもの行動—対応—どうなったか（結果）を観察しよう

記入者名 _____

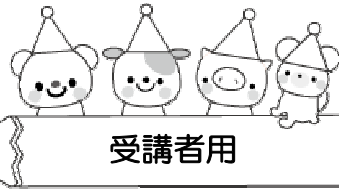
子どものニックネーム _____ (_____ 歳)

日付	状況・場面	子どもの行動	あなたの対応	子どもの反応	やりとりの終わり方	行動が起こる頻度	どう感じたか？
月 日 ()							
月 日 ()							

☆「見える、聞こえる、数えられる」を意識しながらエピソードが目浮かぶように具体的に書いてみましょう♪

☆実際に先生やこどもの言ったセリフなども書いてみてください♪

ふり 返 り



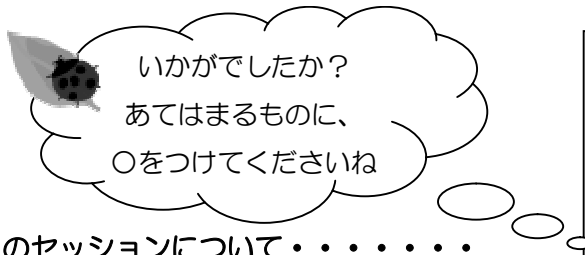
受講者用

第1回 年 月 日 ()

名前 ()

1 今日出席する前の、あなたの体調・気分はどのようでしたか？

良い ・ まあまあ ・ 悪い ・ どちらとも言えない



全くあてはまらない	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	非常にあてはまる
-----------	---------	---------	-------	----------

2 今日のセッションについて.....

☆ 楽しかったですか？	1	2	3	4	5
☆ 内容はわかりましたか？	1	2	3	4	5
☆ 発表は十分にできましたか？	1	2	3	4	5
☆ <u>今日の目標</u> は達成できましたか？	1	2	3	4	5

⇒ ■ “行動” を観察していくことを押さえよう。

☆ 印象に残った内容・使えそう！と思った内容があれば、教えて下さい。

☆ 今日のセッションについて、感想、質問、疑問等がありましたら、お願いします。



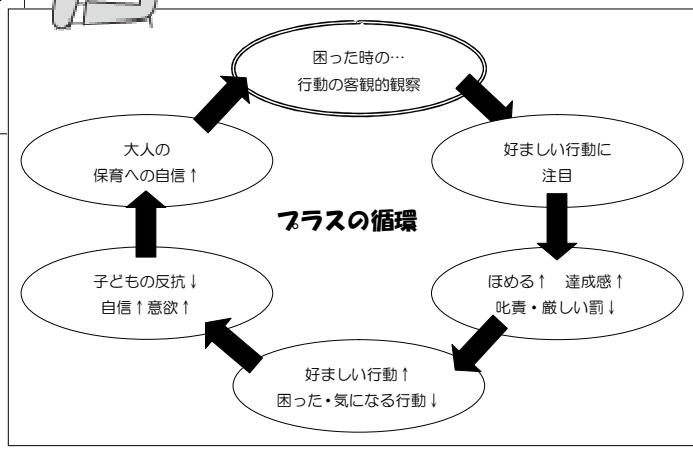
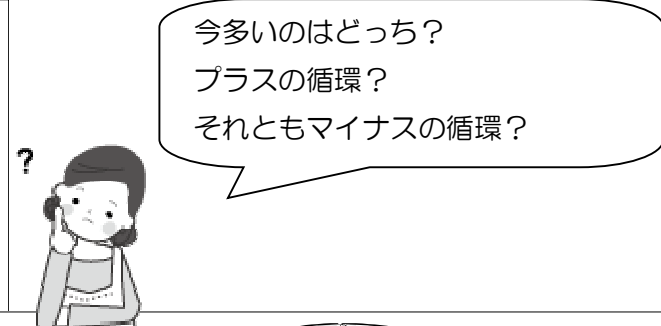
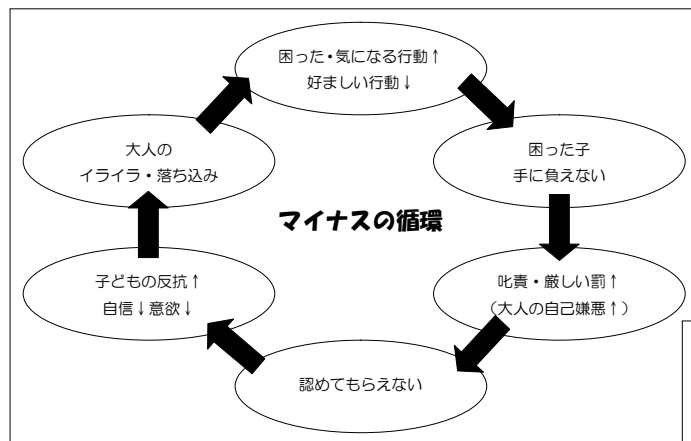
おつかれさまでした☆

1回 ティーチャー・トレーニング

(ポイント)

ティーチャー・トレーニングとは？

保育園や幼稚園で、子どもたちと精一杯関わり、時には親代わりにもなる…子どもたちにとって「最良のサポーター」である先生を応援するプログラムです。子どもの行動観察記録を基に、気になる子どもへの理解と対応を考えながら、「プラスの循環」がより多くなるよう目指します。



行動の客観的な観察から始めよう

子どもの行動には様々な要因が影響しています。子どもの特性だけでなく、行事などの状況や、先生の寝不足など…STOP 犯人捜し！！行動をじっくり観察することから対応のヒントを探しましょう。

(1) ティーチャー・トレーニングでの“行動”とは？

行動とは…「見える・聞こえる・数えられる」具体的に表現できるものです。

☆お家への連絡帳を書くときも使えるポイント♪

- Aちゃんが10回ブランコをこいだ後に、B君がブランコにのる（見える/数えられる行動）
 - × Aちゃんが、お昼ご飯の準備をなかなかしない！（「～ない」は「～する」に変える）
- 考えてみよう「きちんとする」「優しい」「可愛がる」など“行動”にすると、どんな言葉になるかな？

(2) “行動”に注目するメリット

① 先生は具体的に伝える事ができ、子どもは理解しやすくなる。

例)「Cちゃんに優しくしようね」⇒「後5回したら、Cちゃんに代わってあげようね」

具体的に伝えると、子どもはどうしたらいいのかがわかり、行動が変わりやすくなる。

② 子どもの人格を否定しないですむ。

例)「悪い子ね」⇒「頭を叩かずに口でお口で言おうね」

その子の人格や性格に触れず、行動のみに注目をすると、先生は子どもを嫌いにならなくてよくなる。また、子どもも「僕は先生に嫌われている！」「自分は悪い子なんだ」「どうせ僕なんて」と思わないでよくなる。

まずは現時点で、どんなときに、どんなことが起こって、どういう結果で終わっているのか観察していきましょう♪その時の自分自身の気持ちもふりかえてみてください。



第2回 ティーチャー・トレーニング

【今日の目標】

- 子どもの行動を「見える、聞こえる、数えられる」で、観察できているか、ホームワークを確認しよう。
- 行動を分析する意味を考えよう。

1. ウォーミングアップ

2. 前回のポイント

3. グループワーク

ホームワーク①行動観察シート報告

4. ブレイクタイム

前回よりも、リラックスできているでしょうか？初のホームワーク報告！ドキドキですが、みんなで話していきましょう♪

5. ステップ学習②

行動観察から行動分析へ

ホームワーク②行動のタイプ分けシートの説明

6. 今日のまとめ

ふりかえりシート記入



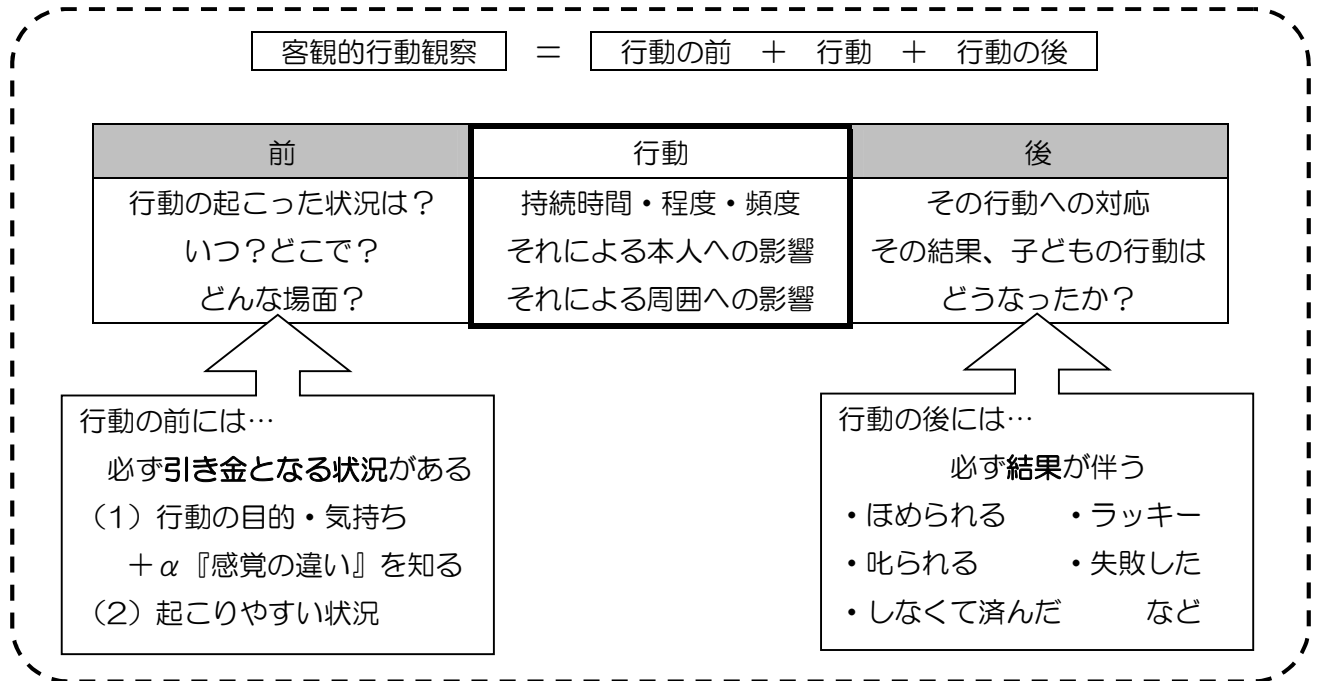
次回は、
月 日 () ♪



行動観察から行動分析

1. 子どもの行動を分析しよう

行動観察したものを、細かく分析してみましょう。分析のポイントは「行動」の前と後。



2. 行動前の状況をふりかえってみよう

(1) 行動の目的・その時の子どもの気持ちを考える

大人には大問題！と思える時でも、必ず子どもには子どもなりの理由があります。

その時「どういう気持ちでいるのかな？」と考えてみましょう。

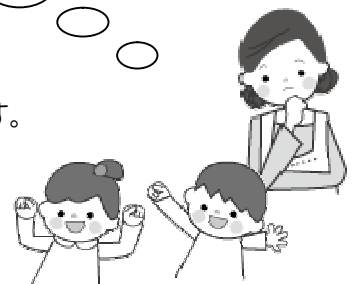
そしてその気持ちを「〇〇なんだね」と共感し理解しようとするのが、支援の大きな第一歩です。

行動の目的には、こういうものがあります

その行動をすることで…

- 注目要求 注目を得るための行動（「見て欲しい」と立ち歩く など）
- 物や活動の要求 物や活動を得るための行動（「そのおもちゃが欲しい」とお友だちを叩く など）
- 逃避・回避 嫌なことをしないで済むための行動（「したくない！」と文句を言う、泣く など）
- 感覚や刺激の獲得 感覚や刺激を得るための行動
 （水に触って「気持ちいい～」、布団にもぐって「ホッとする～」 など）

「見え方」「聞こえ方」「感じ方」などの違いを知ることで、理解に役立ちます。



3. どういう結果で終わっていたかをふりかえってみよう

行動の後には、叱られる・ほめられる・片付けなくてよかった…などの結果が必ず伴います。

強化の理論

■行動の後に、その子にとっていいことが増えれば、その行動は起こりやすくなる

- 【いいこと有】嬉しい・楽しい・満足 など
- 【嫌なこと無】嫌なことがなくなる・面倒なことをしないで済む など

考えてみよう～Aちゃん(4歳)の例～

前	行動	後
Aちゃんは、Bちゃんの遊んでいるおもちゃをジーっと見ている。	Aちゃんは、Bちゃんのおもちゃを指差して、泣き叫び出した。	<わがママはダメよ！>と叱ったが、泣き止まなかった。その時、Bちゃんがおもちゃを貸してくれたので<Bちゃんありがとう！Aちゃん、次からはわがママ言ったらダメよ！>と注意した。Aちゃんは「うん」と言って泣き止み、落ち着いた。

(1) Aちゃんは、どういう目的で泣いていたのでしょうか？

- [注目要求 ・ 物や活動の要求 ・ 逃避回避 ・ 感覚や刺激の獲得]

(2) Aちゃんの、おもちゃが欲しいと泣き叫ぶ行動は、なくなると思えますか？

- [なくなる ・ なくなる]

(3) どうやったら、Aちゃんは泣き叫ばずに、おもちゃで遊ぶことができるようになるのでしょうか？泣き叫ぶという行動の後に、どんな工夫が出来そうか考えてみてください。



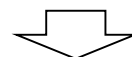
Aちゃんは、「泣き叫ぶという行動」で「おもちゃを貸してもらえる」という、いい結果を得ています。そのため「泣き叫ぶことで要求が通る」ことを学習し、同じことをくり返す可能性が高まります。

■“行動の後”を変えてみよう

Bちゃんの遊んでいるおもちゃが欲しかったのか、泣き叫びだしたAちゃん…

前	行動	後
「泣き止んでお話してごらん」とAちゃんに声をかける。	2分程して、涙は残りながらも<Aちゃんもおもちゃで遊びたい>と言った。	「泣き止んでお話できてえらいよ、Aちゃん」とほめた。

先生がほめることで、子どもに頑張る力がついていきます。詳しくは第3回ステップ学習『肯定的な注目』、第4回ステップ学習『子どもが動きやすい指示の出し方』でお伝えします。お楽しみに♪



Aちゃんは『先生にほめられる』といういい結果を得るので、「泣き止んでお話する」ということを学習し、くり返す可能性が高まります。



子どもの行動が変わる5つのポイント

ポイント1 いきなり高望みしない

<ちょっと立ち止まって>

ポイント2 子どもの行動をよく観察すること

<よく見て、考えて>

ポイント3 今できていることから、一段一段ステップを踏んで着実に

<ねらいを定めて>

*日常生活の中の良いと思う行動を見つけよう。

ポイント4 子どもの発達特性に合わせて

<その子を思い出して>

*すぐに、具体的に、わかりやすく伝えよう。

*児の注意の持続時間と興味のあるものを調べて…

短時間で飽きないように、興味を持たせる工夫はないかな？

*できた！という自信をもたせることのできる課題からやってみよう。



ポイント5 強化の理論を思い出して…対応に一貫性を持たせる大切さ

<さあ、やってみよう！>

4. いよいよ子どもに対応する…その前に！行動を3つに分けましょう(ホームワーク②)

行動の後に、その子にとっていいことがあれば、その行動はどんどん起こりやすくなる…という「強化の理論」は、分りましたか？つまり、それいいね！という行動の後に、その子にとっていいことを返してあげると…それだけその行動は起こりやすくなるということ。しかし、こういう場合はどうでしょう。



「一昨日は、おもちゃを3つ片づけたら、先生にほめられた」

「昨日は、おもちゃを5つ片づけたけど、先生に何も言われなかった」

「今日は、おもちゃを1つだけしか片づけなかったけど、先生にほめられた」

とても混乱してしまいそうですね。

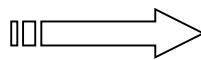


そこで

それぞれの行動に応じた、一貫した対応を、ちょっと意識して行うために

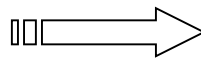
まずは行動を3つ（「好ましい行動」・「好ましくない行動」・「許しがたい行動」）に分けましょう。

好ましい行動



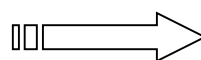
肯定的な注目(ほめる)

好ましくない行動



指示を出す、注目を外す

許しがたい行動



注目を外す、警告とペナルティ

ホームワーク 2 「行動」の3つのタイプ分けシート

記入者名 ティーチャー・トレ子

子どものニックネーム Aちゃん (4歳)

日付	好ましい行動 (増やしたい行動)	日付	好ましくない行動 (減らしたい行動)	日付	許しがたい行動 (なくしたい行動)
O/X (口) 雨	他の子におもちゃを1つ貸してあげた。	O/△ (口) 晴れ	お昼ご飯の時間中、ご飯を半分位食べたらウロウロはじめ、友だち2人のご飯をひっくり返した。	O/口 (口) 曇り	おもちゃを投げたので、「こうやっておもちゃは渡します」と見本を見せて伝えたら、泣き出しておもちゃを顔に投げた。
O/△ (口) 晴れ	椅子を並べていたら「先生、Aちゃんが手伝ってあげるよ」と運んでくれた。				

■記入する時には、行動（見える・聞こえる・数えられる）を意識して、具体的に書いてみましょう♪

■3つの行動を分けた“基準”は何でしょう？

どうしてこの行動は好ましいの？好ましくないの？許しがたいの？

この分類に正解はありません。
私はどうしてこの行動が好ましくないのかな…？考えながら書いてみましょう♪



今日のポイント

■ 行動分析は「行動の前」と「行動の後」をみよう

行動の前：必ず引き金となる状況がある（行動の目的は？その行動が起こりやすい状況は？）

行動の目的⇒注目欲求 / 物や活動の要求 / 逃避・回避 / 感覚や刺激の獲得

感覚の違い⇒見え方・聞こえ方・感じ方の違い

行動の後：必ず結果が伴う（ほめられる・叱られる・失敗した・ラッキー など）

強化の理論⇒その子にとって良いことが増えれば（悪いことが減れば）、その行動

■ 子どもの行動が変わる5つのポイント

ポイント1 いきなり高望みしない

ポイント2 子どもの行動をよく観察する

ポイント3 今出来ていることから、一段一段ステップを踏んで着実に

ポイント4 子どもの発達特性に合わせて

ポイント5 強化の理論を思い出して…対応に一貫性を持たせる大切さ

ホームワーク2 「行動のタイプ分けシート」子どもの行動を3つに分けよう

記入者名 _____

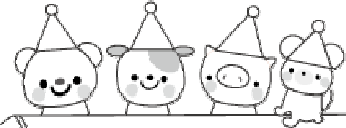
子どものニックネーム _____ (_____ 歳)

☆ **こどもの行動のみを記入してください。** その後の先生の対応やこどもの反応についてはグループワークでお尋ねします♪

好ましい行動 (増やしたい行動)		好ましくない行動 (減らしたい行動)		許しがたい行動 (なくしたい行動)	
月 日 ()		月 日 ()		月 日 ()	
月 日 ()		月 日 ()		月 日 () 天気	

☆この分類には、正解はありません。園やクラス・年齢・先生によってルールは違うので、それぞれの基準で分類してみてくださいね♪

ふ り 返 り



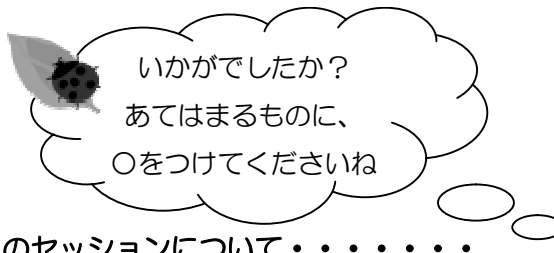
受講者用

第2回 年 月 日 ()

名前 ()

1 今日出席する前の、あなたの体調・気分はどのようでしたか？

良い ・ まあまあ ・ 悪い ・ どちらとも言えない



2 今日のセッションについて.....

全くあてはまらない	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	非常にあてはまる
-----------	---------	---------	-------	----------

- ☆ 楽しかったですか？ 1 2 3 4 5
- ☆ 内容はわかりましたか？ 1 2 3 4 5
- ☆ 発表は十分にできましたか？ 1 2 3 4 5
- ☆ 今日の目標は達成できましたか？ 1 2 3 4 5

⇒ ■子どもの行動を「見える、聞こえる、数えられる」で、観察できているか確認しよう
■行動を分析する意味を考えよう

☆ 印象に残った内容・使えそう！と思った内容があれば、教えて下さい。

☆ 今日のセッションについて、感想、質問、疑問等がありましたら、お願いします。

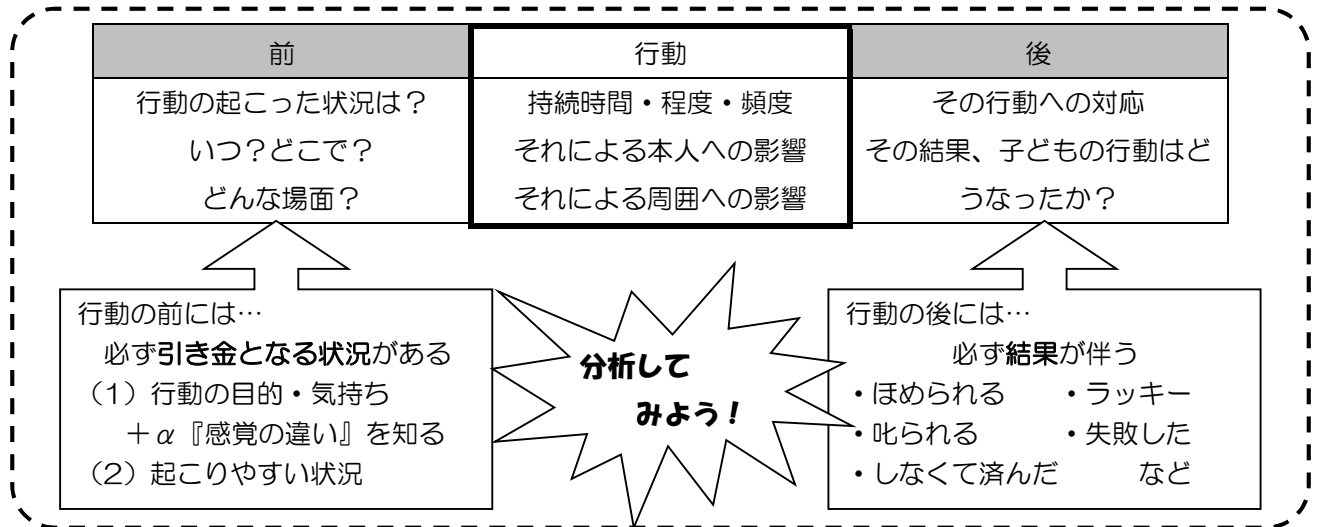
おつかれさまでした☆



第2回 ティーチャー・トレーニング (ポイント)



行動観察から行動分析へ



子どもの行動が改善されるためのポイント

- ポイント1 いきなり高望みしない
- ポイント2 子どもの行動をよく観察すること
- ポイント3 今できていることから、一段一段ステップを 踏んで着実に
- ポイント4 子どもの発達特性に合わせて
- ポイント5 強化の理論を思い出して…対応に一貫性を持たせる大切さ

トラブルのあった時にこそ、少しでも望ましい行動を見つけて、最後はほめて終わります。
先生からほめられることは、その子にとって良いことであるため、行動を変えやすくなります。

子どもの行動そのものは、すぐには変わりにくい。まずは観察の中で見えてきた、起こりやすい状況・きっかけ(行動の前)を変えたり、先生の対応の仕方(行動の後)を工夫してみましょう。

?



- ・困った行動を、強化の理論に当てはめてみるとどうかな?
- ・困った行動によって、その子が抱えている要求(注目要求・物や活動の要求・回避や逃避要求・感覚や刺激の獲得)を、別の行動で満足させられないかな?



子どもの行動を3つのタイプに分けましょう (一貫した対応をするため)



※ “許し難い行動” には「注目を外す」「警告とペナルティ」といった厳しい対応になるため、自他へ危害を加えたり、危険な行動の場合のみ分類することがオススメです。

第3回 ティーチャー・トレーニング

【今日の目標】

- 行動を3つのタイプに分けた基準を考えてみよう。
- 子どもに合った肯定的な注目を考えよう。

1. ウォーミングアップ

2. 前回のポイント

3. グループワーク

ホームワーク② 「行動のタイプ分けシート」報告

お忙しい合間のホームワーク、本当にありがとうございます！
今日も先生方のお話、楽しみにしています♪

話す、聞く、質問する、そして…
とにかく一緒にやってみましょう♪

4. ブレイクタイム



5. ステップ学習③

肯定的な注目の仕方

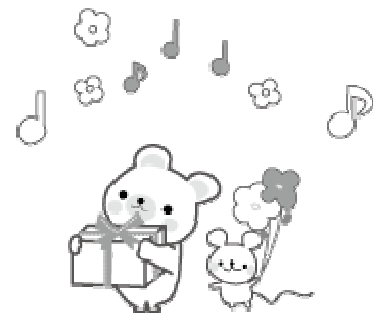
ホームワーク③ほめ方シートの説明

6. 今日のまとめ

ふりかえりシート記入



次回は
月 日 () ♪



肯定的な注目の仕方

1. こんなこと、ありませんか？



おんなじ「注目」でも、ついつい好ましい行動よりも、好ましくない行動に注意を向け、ほめられる(＝肯定的な注目)より、叱られる(＝否定的な注目)ように訓練してしまっているかも…！？もしそんなときは、ほめると叱る、のバランスを変えるチャンス♪

子どもとのやりとりを、スムーズにする法則

+ (プラス)が欲しいならば、先に相手に+ (プラス)を与えよ
- (マイナス)を与えたならば、それ(マイナス)は自分に戻ってくる

2. 肯定的な注目(＝上手な注目・ほめる・プラス)とは

子どもの好ましい行動に「気づいているよ」「知っているよ」「見ているよ」と伝えること。それに対して子どもも、「認められている」「先生が気づいてくれている」「見てくれている」と思えること。

■注目言葉を使う

「いい子ね」ではなくて「お布団の用意がよく出来たね」のように、子どもの行動を具体的に言葉で伝えます。メッセージは短く明瞭で、子どもの行動の中で“先生がして欲しかった行動が何であったかを分かってもらえるように”しましょう。

OK 注目言葉 例

- ① 励ます 「その調子！」「もう少しで片付けおしまいだね！頑張ろうね」
- ② 感謝する 「〇〇してくれてありがとう！先生とっても嬉しいな」
- ③ ほめる 「〇〇出来たね！」「かっこいい！」
- ④ 行動に気づいていることを知らせる 「〇〇してくれてるんだね」
- ⑤ 興味や関心を示す 「凄い！〇〇してくれてるの！？」「どれどれ～？」「おおー！」 など



■注目動作を使う

- ① 目 子どもと視線を合わせる
名前を読んだりして子どもが見返すのを待ってから
- ② 身体 子どもと同じ目の高さになる
子どもに近づく・そっと身体に触る・ハイタッチ・拍手
- ③ 表情 にっこり微笑む・くしゃくしゃの笑顔で
- ④ 声 ささやくように・情熱的に元気いっぱい
など

★ 考えてみよう ～〇〇くん・〇〇ちゃんのOK 注目集～

これまでの行動観察から…

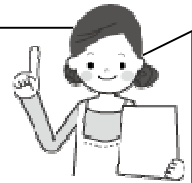
- ① 子どもの性格・感じ方・年齢・状況に合わせて
「どんな風にほめられたいのかな？」
- ② 色々な場面でほめてみて
- ③ 子どもの反応を見ながら…

こうして、少しずつ【〇〇くん・〇〇ちゃんのOK 注目集】が出来ていきます。

☆あの子は、どんなほめ方が好きかな？

[]

情熱的にほめるよりも、ささやくようにほめたほうが、嬉しそうだったな。BくんのOK 注目集に入れておこ〜っと♪



3. こんな時こそ、ほめるチャンス！

- ① して当たり前なことでも、言われてからやったことでもOK！“これからも、その子が続けてくれたらいいと思うこと”や、“頑張ろうとしていること”に、肯定的な注目を使おう。
出来ることが増えてきたら、子供の成長に合わせて、ほめるポイントを変えていくことも必要です。
例えば「自分で決めたことを守ろうとするのは、凄いことだよ」と内面の変化に目を向けたり。
- ② 子どもの好ましい行動が始まったら、すぐに肯定的な注目を使おう。
25%ルール：100%まで待たないで、し始めたらほめる、している途中もほめる、出来たらほめる

<考えてみよう> ～どうして、片付け終わってから、ほめるのでは不十分なの？～



おっ！お片づけしてる～
終わったらたっぷりほめてあげよう♪ C君いいぞ～！

もし、C君が、途中でお片づけに飽きてしまったら？遊び始めてしまったら？ほめることが出来なくなってしまいます。C君にとっては、おもちゃを1つ片付けるのも、とても大変なことかもしれません。また、お片づけしてくれるのは、とてもいいことなのに。それが、C君には伝わりません。

4. 気をつけよう！ ついつい言ってしまうがちな NG 注目言葉…

せっかくほめたつもりでも、

NG 注目言葉 例

- ① 批判 「よく出来たね。でも、もっと早くやっておけばよかったね」
- ② 横取り 「ほら、出来るって言ったでしょ～？先生が言った通りやったね～」
- ③ 皮肉 「あら、珍しい！熱でもあるんじゃないの？」
- ④ 他児との比較 「Bちゃんより上手ね！」 「C君より、えらかったね」
- ⑤ 要求 「上手に出来たね。でも次はもっと上手に頑張ろうね」 など



<2人組で、やってみよう> ～OK 注目言葉・NG 注目言葉を体験～

場面 お片づけが嫌いな〇〇ちゃんが、皆よりは遅くなったけど、おもちゃを3つ、かごに入れてお部屋に戻ってきました（先生は、〇〇ちゃんの行動を遠くから見ていました）。

役割 お互いに、先生役、〇〇ちゃん役になりきってみましょう。

方法 「先生～、〇〇お片づけした～」の一声でスタートします。そこで、先生一言！

順番 ①「NG 注目」→交代→「NG 注目」 ②「OK 注目」→交代→「OK 注目」 ③感想

5. 意味づけ

「先生にほめられるから、する！」 「お母さんにほめられるから、する！」で終わらないように、頑張ったことにどんな意味があるのかを伝えることも重要です。

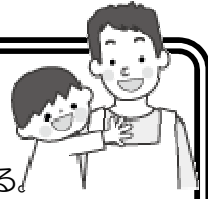
子ども自身の成長に繋がっていることや、周りにも影響を与えていることを知ることで、頑張ることの意味を感じたり、人の役に立つことの嬉しさを感じることができます。特に、相手の気持ちを読み取るのが苦手な子どもには、「あなたの行動でこんな（+なこと）気持ちになったよ！」と伝えることは大切です。

- 例① 片づけをすると・・・「次に遊ぶ時に探しやすくなったね。」 「忘れ物をしないですむね。」
- ② 宿題をすると・・・「頑張る力がついてきたね」「頑張ってるから、計算が速くなってきたね。」
- ③ 掃除をすると・・・「〇君が掃除してくれたから、皆が気持ちよく過ごせるよ。先生も嬉しいな。」

6. スペシャルタイムをしてみよう

スペシャルタイムとは？

子どもと先生と一緒に楽しめる時間
子どもがどういう遊びをしているのか、どういうことを好むのかを観察する。
あなたの好きな行動、増やしたい行動を見つけて、ほめるチャンスを手に入れる



<スペシャルタイムをすると…？>

- 大人は、子どものいい面に注目を向け、上手にほめる習慣がつく。
- 子どもは、大人からたくさんほめられる体験と、楽しく遊びきる達成感から、自信や自尊心が高まったり、切りかえの練習になったりする。
- 大人と子どものやり取りが、プラスの循環に変わっていくきっかけになる。

スペシャルタイムをする前に…

① 時間をみつける

子どもと2人になれる時間、他の邪魔が入らない時間、気持ちにゆとりのある時間

※子どもが9歳以下の場合は、1日15～20分。9歳以上の場合は、毎日決まった時間を選ぶ必要はありません。子どもが1人遊びを楽しんでいる時などに、スペシャルタイムをしてみましょう。

② スペシャルタイムを設けることを、事前に子どもに伝える

『スペシャルタイムって、2人きりで、〇〇ちゃんが好きなことをして遊べる時間だよ』と、事前に宣言し、明確に枠を設けると、お互いがスペシャルタイムの時間を安心して過ごせます。
※テレビ、テレビゲーム以外なら、何でもOK

さぁ！やってみよう♪

1. 「さぁ、一緒に遊ぶスペシャルタイムだよ。何をしようか？」と声をかける。子どもは理由なく“すること”を決めることができる。
2. まずはリラックスして、子どものやっていることを、数分ながめる。そして、適当な所で加わる。
3. 子どもの遊びをながめながら、子どもがやっていることを、まるでスポーツキャスターの中継のように声に出して言ってみる。そうすると、子どもは、大人が自分の遊びに興味があることが分かる。
4. 質問しない・命令しないことがルール。遊んでいる最中に「こうしたらいいんじゃない？」と教えることもしない。子どもは全て自分で決めていく権利がある…と心得ましょう。
5. 子どもがやっていることで、“いいなあ”と思ったことは、すぐほめる。出来るだけ具体的に、気持ちを込めて。
6. もし、子どもが困った行動をし始めたら…ただ背を向け、数分間他の所を見て過ごす。それでも困った行動が続くようなら「スペシャルタイムは終わりだよ」「いい振る舞いが出来るようになったら、また後で遊ぼう」と伝え、部屋を出て行く。もしスペシャルタイム中にひどく暴れたりしたら、その時は普段通りに叱る。
7. 出来れば、無理のない範囲で続けていくようにしましょう。

7. ○○くん・○○ちゃんの OK 注目集を作ろう(ホームワーク③)

今日のホームワークは、「子どもの行動をほめよう」です。普段の保育の中で、“ほめる”ことは沢山されていると思います。そんな、いつもやっている“ほめる”を、

- どんな行動をほめたかな？
 - どんな声かけや動作を意識してみたかな？
 - ほめた後は、どんな反応が返ってきたかな？
- ちょっと細かく観察してみましょう♪

これから「子どもが動きやすい指示の出し方」「上手な注目の外し方」など、好ましくない行動への対応も考えていきます。その時に、今回の「ほめる」は、とても重要な働きをします。是非今回の『肯定的な注目』を意識しながら、取り組んでみてください。

ホームワーク3 「ほめ方シート」 好ましい行動を見つけ、子どものOK注目集

子どものニックネーム Aちゃん (4歳)

日付	好ましい行動	どのように肯定的な注目(言葉、態度、表情)をしたか？	子どもはどんな反応をした？	あなたはどう感じたか
○/△ (○) 晴れ	トイレのスリッパを並べてくれた。	「Aちゃん、5足もスリッパ並べてくれたの？ありがとう！さすが○○組さんのお姉さんだね」と頭をなでた。	「えへへ」とニコニコしていた。次の日は、先生用のトイレのスリッパも並べてくれた。	Aちゃん嬉しそうだなあ〜。「並べなさいー！」と怒ってたのがうそみたい。私も嬉しい気持ちになった。
○/△ (○) 晴れ	①「お片づけするよ」と1回言われただけで、使っていたブロックを片付けはじめた。	②「Aちゃん、先生のお話聞いて、お片づけしてくれてるんだね！凄いね！」と声をかけた。 ④「わ！Aちゃんが遊んでいないおもちゃまで片付けてくれています」と実況中継し、「先生嬉しいなあ、ありがとう」と頭をなでた。	③「へへーん」と得意気になって、他のお友だちが遊んでいたおもちゃも片付けはじめた。 ⑤ニコニコしながら、全てのおもちゃを片付けていた。	しつこくほめすぎかな？と思っていたけど、Aちゃんは嬉しそうに片付けてくれていた。たくさんほめていいんだなあと感じた。実況中継って言うのが恥ずかしい気がしてたけど、効果あるかも！

今日のポイント

■ 肯定的な注目とは…

子どもが好ましい行動をしていることに「気づいているよ」「知っているよ」「見ているよ」と伝えること。そして子どもも「認められている」「先生が気づいてくれている」「見てくれている」と思えること。

■ そのために…

その子が好きなほめ方で、ほめることが何より大切です♪

- OK 注 目 言 葉：励ます・感謝する・ほめる・気づいてるよと知らせる など
- OK 注 目 動 作：視線、目線を合わせる・ほほえむ・ささやくように など
- ほ め る こ と：して当たり前なこと・頑張ろうとしてること・続けて欲しいこと など
- ほめるタイミング：25%ルール

ホームワーク3 「ほめ方シート」子どもの好ましい行動を見つけて、子どものOK注目集を作ってみよう

記入者名 _____

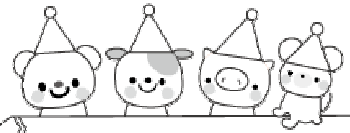
子どものニックネーム _____ (_____ 歳)

日付	好ましい行動	どのように肯定的な注目 (言葉、態度、表情)をしたか?	子どもはどんな反応をした?	あなたはどう感じたか
月 日 ()				
月 日 ()				



ポイント
 ☆25%ルールで肯定的な注目をしよう。 ☆何が良かったのか具体的に伝えてみよう。 ☆実況中継を使ってみよう。

ふり返し



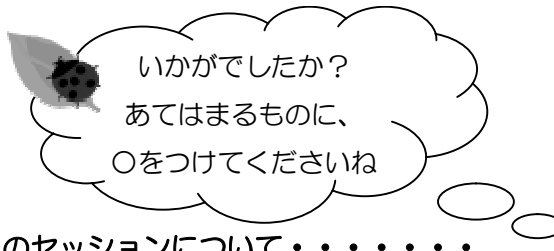
受講者用

第3回 年 月 日 ()

名前 ()

1 今日出席する前の、あなたの体調・気分はどのようでしたか？

良い ・ まあまあ ・ 悪い ・ どちらとも言えない



2 今日のセッションについて.....

全くあてはまらない	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	非常にあてはまる
-----------	---------	---------	-------	----------

- | | | | | | |
|---------------------------|---|---|---|---|---|
| ☆ 楽しかったですか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ☆ 内容はわかりましたか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ☆ 発表は十分にできましたか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ☆ <u>今日の目標</u> は達成できましたか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
- ⇒ ■行動を3つのタイプに分けた基準を考えてみよう
 ■子どもに合った肯定的な注目を考えよう

☆ 印象に残った内容・使えそう！と思った内容があれば、教えて下さい。

☆ 今日のセッションについて、感想、質問、疑問等がありましたら、お願いします。



第3回 ティーチャー・トレーニング (ポイント)



子どもとのやりといをスムーズに

ほめよう、ほめたいと思っていても、ついつい好ましい行動よりも、好ましくない行動に注意を向け、ほめられる(=肯定的な注目)より、叱られる(=否定的な注目)ように訓練しているかも…!? でも、この「ほめる」と「叱る」のバランスは、変えることができます。

+ (プラス)が欲しいならば、先に相手に+ (プラス)を与えよ
- (マイナス)を与えたならば、それ(マイナス)は自分に戻ってくる



肯定的な注目の仕方

■肯定的な注目とは

子どもが好ましい行動をしていることに「気づいているよ」「知っているよ」「見ているよ」と伝えること。そして子どもが「認められている」「先生が気づいてくれている」「見てくれている」と思えること。

■OK 注目言葉・注目動作を使ってみよう

NG 注目言葉もあるよ!

子どもの好ましい行動を言葉で伝えましょう。メッセージは短く明瞭で、子どもの行動の中で“何が好ましい行動であったかを分かってもらえるように”。

① 励ます

「その調子！」
「もう少しで片付けおしまいだね！」

② 感謝する

「〇〇してくれてありがとう！」
先生とっても嬉しいな」

③ ほめる

「〇〇出来たね！」「かっこいい！」

④ 行動に気づいていることを知らせる

「〇〇してくれてるんだね」

⑤ 興味や関心を示す

「凄い！〇〇してくれてるの!？」
「どれどれ~?」「おおー！」 など

⑥ 目

子どもと視線を合わせる・
名前を読んだりして子どもが見返すのを待ってから

⑦ 身体

子どもと同じ目の高さになる
子どもに近づく・そっと身体に触る・ハイタッチ・拍手

⑧ 表情

にっこり微笑む・くしゃくしゃの笑顔で

⑨ 声

ささやくように・情熱的に元気いっぱいなど



こんな時こそ、ほめるチャンス!

① して当たり前なことでも、言われてからやったことでも OK! “これからも、その子が続けてくれたらいいなと思うこと” や、“頑張ろうとしていること” に、肯定的な注目をしよう。出来ることが増えてきたら、子供の成長に合わせて、ほめるポイントを変えていくことも必要!

【例】「自分で決めたことを守ろうとするのは、凄いことだよ」と内面の変化に目を向けたり…。

② 子どもの好ましい行動が始まったら、すぐに肯定的な注目をあたえます。

25%ルール：100%まで待たずとも…「し始めたら」
「している途中も」
「出来たら」

ほめる



第4回 ティーチャー・トレーニング

【今日の目標】

- 子どもの行動「見える、聞こえる、数えられる」に、肯定的な注目を与えていたか、ホームワークを確認しよう。
- どんな指示の出し方をすれば、子どもに伝わりやすいか考えよう。

1. ウォーミングアップ

2. 前回のポイント

3. グループワーク

ホームワーク③ほめ方シート報告

肯定的な注目を与えた後の、子どもの様子はいかがでしたか？先生方のご報告、楽しみにしています♪

4. ブレイクタイム



5. ステップ学習④

子どもが動きやすい指示の出し方

ホームワーク④指示の出し方シートの説明

6. 今日のまとめ

ふりかえりシート記入



子どもが動きやすい指示の出し方

1. なぜ指示に従いにくいのか？

- ① 耳からの情報が入りにくい・周囲の刺激で気が散りやすい
- ② 「やらなければ」という動機付けが弱い（集中力が弱い・刺激に敏感）
- ③ 今その場でやるべきことが分からず、自分の興味が優先している
- ④ 最後まで出来た！ほめられて嬉しい！という体験が少ない

など…

他にもあるかな？行動観察の定番です♪



2. 指示とは？

指示とは、その時にやるべき行動を伝えることで、お説教ではありません。

指示に従えたら、25%ルールでほめます。

指示は必ず 指示 + ほめる

3. 指示を出す時のこころの準備体操

最初の **C: Calm** ^{カーム} 先生自身が穏やかな気持ちで

子どもの「いやだ！」「やりたくない！」「だって…」に振り回されないために、自分自身の気持ちを“穏やかスイッチ”に入れましょう。

◆穏やかスイッチを維持する工夫◆

「〇回指示をくり返す必要があるかもしれない」「指示に従おうとするまでに、〇分かかかるかもしれない」と、いつもより多めに予想しておきましょう。

もう一つの **C: Close** ^{クローズ} もう少し子どもに近づいて

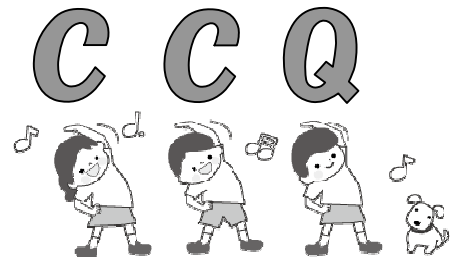
離れた場所や見えない所から指示を出したり、指示を出すために子どもを近くに呼んだりするのではなく、あなたから子どもに近づき、注目できる距離に近づきましょう。

最後は **Q: Quiet** ^{クワイエット} 落ち着いた静かな声で

大声を上げたり、感情的に言うと、その声の調子に反応して、子どもも感情的になります。また、言われている内容そのものが、子どもに伝わりにくくなり、理解されません。子どもにも冷静に聞いてもらうためには、自分が静かな声で伝えることを心がけましょう。

やりとりをスムーズにするヒントを思い出そう

+ (プラス) が欲しいなら、先に相手にそれ (+) を与えよ
- (マイナス) を与えたら、それ (-) は自分に戻ってくる



4. CCQ で指示を伝えてみよう

① 子どもの注意を引く・視線を合わせる

していることを止めて、子どもの近くに行きます。

名前を呼んだり、肩を軽くたたいたりして、注意がこちらに向いているのを確認したりします。視線を合わせるのを嫌がる子には、その子が好きな距離や姿勢を保つことを認めます。うまく注意が引けない時には、

「たまたま顔を上げて周囲を見回した時」「活動がひと段落して別の行動に移る時」を利用して。



② 予告をする

楽しいことをしている時ほど、指示には従いにくいもの（大人と一緒に）。「後 3 回したら、B ちゃんと代わってね」「時計の針が 3 まで来たら、絵本を棚に置くよ」など、子どもに分かりやすい回数や時間を示し、今の行動を止める準備の時間を与えます。子どもにとっては「後 3 回出来る」と許可してもらえたこととなりますね。その間に、子どもは心の準備ができ、指示に従いやすくなります。

③ 指示は短く、具体的に（ポイントは“行動：見える・聞こえる・数えられる”）

長い指示は、お説教や余計なことまで言ってしまいがち。これでは、肝心な部分が子どもに伝わらなくなります。また、抽象的な指示では、やるべき行動は伝わりません。指示は短く、具体的に。



- して欲しくない行動よりも、して欲しい行動を伝えたほうが分かりやすい
「走っちゃだめ！」より「座りなさい」 指示は肯定文で♪
- 伝わってないかな？という時は、より具体的に伝えてみる
「それとって」より「帽子とって」 指示語はなるべく避けるのもコツ♪

④ CCQ で何度か指示をくり返す

1 度だけの指示で、その行動に移るのは難しいもの。指示は何度かくり返す必要がある…ということを頭に入れて、2 回…3 回…CCQ で繰り返します。指示をくり返す時に「カバンをロッカーに置きなさい」「ロッカーにカバンを入れなさい」「カバンを運びなさい」…と言い方を変えるのではなく、同じ言い回しをくり返します。

⑤ 25%ルールでほめる

子どもが指示した行動に取りかかったらすぐに、タイミングを逃さず、その子に合ったほめ方をしましょう。そのためにも、指示を出した後に、少し待って、距離を置いて、子どもの行動変化に意識を向けておく必要があります。子どもがブツブツ文句を言いながらも、指示した行動に取りかかったら、25%ルールですかさずほめます。実はこの“ほめる”ことが、指示を出す時に一番大きなポイントです



**動きやすい指示は、子どものよい行動を引き出すためのものです。
よい行動が出たら、見逃さずにほめましょう。**

- すぐに指示された行動へ取りかかった
- CCQで3回指示をくり返した後に、指示された行動に取りかかった
- 文句を言いながら、指示された行動に取りかかった

全てほめます♪



5. もっと動きやすい指示にするために ～工夫してみよう～

子どもの気持ちを考えよう

工夫① 選択法 子どもに選択してもらう

「黄色のパジャマにする？しましまにする？」など、子どもに選択肢を提案し、選んでもらいます。子どもは自分が決める権利を与えられるので、気持ちよく指示に従うことが出来ます。しかし、明らかに子どもの嫌いな2択だと…選ぶのも嫌になってしまいます。何を選択肢に持ってくるかも、日頃の行動観察で探してみてください。

注意 ～その選択肢、どちらを選んでもほめられる??～

例1)「お片づけする!? せん!?!」⇒「フロックからお片づけする? 絵本からお片づけする?」

例2)「パジャマ着るとね?着らんとね!?!」⇒「スポンから着る?シャツから着る?」

どちらかを選択すると、怒られてしまうものだと、褒めて終わることができなくなってしまいます。どちらを選んだとしてもお互い気持ちよく終われるように、選択肢を設定してみてください。

工夫② 特典法 「〇〇したら～できる」を利用する

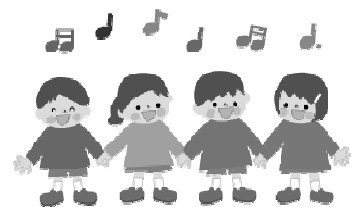
行動をすることに対し“特典”を与える取り決めをすることで、子どもの頑張るエネルギーを引き出します。特典内容は特別な品物である必要はありません。「～したらお散歩」「～したらいつもより自由遊びを10分長くする」など、子どもが何を喜ぶのか、どういったことに興味があるのかを、普段から観察し、知っているといいですね。ただ、先生が無理なく約束が守れるものにしましょう。

工夫③ 協力法 子供同士の力を利用する

好ましい行動をしている他の子どもをほめることで、好ましくない行動をしている子どもが、好ましい行動に移れるように促す方法です。例えば…Aちゃんが床に寝転がっていたので、Aちゃんの横でカッコいい体操座りをしているB君に「B君の体操座り、背中がピーンと伸びてカッコいいね～♪」とほめるなど。※この時、「Aちゃん床に寝そべておかしいなあ～」のように、一人を非難することはありません。

工夫④ 見通し 見通しを伝える

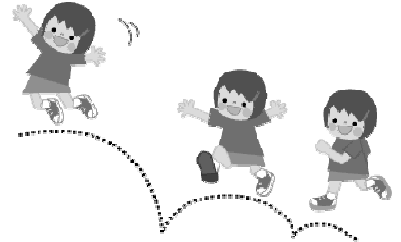
不安が強かったり、こだわりがあることで、新しいことや、予定が変わる時にパニックになりやすい子がいます。その時は、今後の予定や、起こりうる可能性について事前に伝えることで、心の準備が出来て、落ち着くことが出来ることがあります。



子どもに合わせよう

工夫⑤ ステップ課題 課題をその子に合ったものにする

「もう〇歳だから…」「他の子はみんな出来ているんだから」ではなく、「この子はどこまで出来るかな?」としっかり観察します。その上で、例えば「朝の準備をする」という完成形の課題ではなく、「上着をフックにかける」「カバンから帳面を出す」「帳面に出席シールを貼る」「カバンをロッカーに置く」のように、完成形に至るまでの小さなステップ課題を考えましょう。子どもの「やった!出来た!」を増やす課題から始めることが、とても大切です。



工夫⑥ 単一指示 指示は一つずつ

やる気はあっても「上着をフックにかけてね。それが済んだら帳面を出して、出席シールを貼るのよ。終わったらかバンをロッカーに置いてね」のように、一度にいくつも指示を出されると、分からなくなります。まずは指示は一つずつ。

工夫⑦ 環境調整 指示が通りやすい環境を作る

騒がしい場所では落ち着いて話を聞くことが難しくなりますし、周りに大好きなおもちゃがあれば、遊びたくなるのが子ども心。出来るだけ音を減らしたり、周りに見えるものを減らすことで、集中しやすくなります。

工夫⑧ 視覚情報 目で見て分かるように

分かりやすい言葉かけをしても「伝わってないかな?」と思う時は、言葉以外の工夫を考えます。「カバンをロッカーに置きます」と言いながら、カバンを指差したり。「まずは折り紙を三角に折ります」と言いながら、同じように折って見せたり。

工夫⑨ 言い切り調 口調はきっぱり言い切り調で

「片付けしてくれる?」などのお願い口調や、おたずね口調は、子どもに「自分で決めて良いんだ」と思わせ、「嫌だ」と答える余地を与えます。その結果叱られてしまうと…ほめるための指示ではなくなってしまいます。「おもちゃを片付けなさい」と、言い切り調で、こちらの本気や真剣さを伝えた方がよい場合があります。

※中には言い切り口調に過敏に反応する子もいます(命令されてるみたいで嫌…など)。また、「〇〇してくれる?」の言い方が、指示に従ってくれる子もいます。行動観察の出番です♪お子さんに合った言い方を見つけてください。

6. ペアで体験してみよう

絵本を見ているAちゃんに給食の時間だと声をかける。

バージョン①

ホールから大きな声で、部屋の隅っこで絵本を読んでいるA君に声をかける

先生「給食の時間よ。絵本を片付けなさい。」

Aちゃん「…（絵本に熱中していて気づかない）」

先生「Aちゃん、給食の時間よ。絵本を片付けなさい。」

Aちゃん「…（絵本に熱中していて気づかない）」

先生「Aちゃん、給食の時間って言ってるでしょ！何回言わせると！絵本を片付けなさい!!
（先生はAちゃんの近くに行って、絵本を取り上げる）」

Aちゃん「何でいきなり取るの！（大泣き）」

バージョン②

CCQ+予告+25%ルールでほめて終了

先生「Aちゃん」

Aちゃん「…んー？（絵本を読みながら）」

先生「後10分で給食よ。10分したら、絵本お片づけだよ。」

Aちゃん「はあ〜い（絵本を読みながら）」

5分後

先生「Aちゃん、後5分したらお片づけだよ。」

Aちゃん「分かってる〜（絵本を読みながら）」

10分後

先生「Aちゃん、時間が来ました。絵本を片付けます。」

Aちゃん「ヤダ。まだ途中だもん（絵本を読みながら）」

先生「時間が来ました。絵本を片付けます。」

Aちゃん「ヤダ！後ちょっとだけ。」

先生「時間が来ました。絵本を片付けます。」

Aちゃん「先生のケチっ！（と言いながらも、絵本を片付け始める）」

先生「絵本片付けてるね。まだ読みたかったのに、えらいよAちゃん。さあ、ご飯にしよう！」

*ここでは、「先生のケチっ！」については無視し、Aちゃんがまだ絵本を見たかった気持ちを抑え、指示に従えたことをほめます。25%ルールです。

7. 今日のステップ学習で確認したことを意識しながら、子どもに指示をだしてみよう(ホームワーク④)

今回のホームワークは、「子どもへの指示を意識してみよう」です。普段の保育の中で、“指示”することはたくさんされていると思います。そんな、いつもやっている“指示”を、

- どんな行動を指示したかな？
- どんなことに意識して、指示を出してみたかな？
- やり取りの最後は、どんな反応が返ってきたかな？
- その時の先生の気持ちは、どうだったかな？
ちょっと細かく観察してみましょう♪

前回の「ほめる」ことのとても重要な働きは、お分かりいただけましたか？
「指示」+「ほめる」のセットは使えるでしょうか？

ホームワーク 4 【指示の出し方シート】 ポイントを意識して指示を出してみましょう♪			
		記入者名 <u>ティーン・トレ子</u>	
		子どものニックネーム <u>Aちゃん (4歳)</u>	
日付	指示の内容	子どもの反応	それでどうしたか？
○/□ (△) 晴れ	①「Aちゃん」と玄関に呼んで、CCQで「カバンはロッカーに置きます」と言った。 ③選択法を使って「カバンから持っていく？お替替えから持っていく？カ持ちさんは、どちらから持っていくかな？」と言った。	②<は～い>と言うが、カバンを床に置いて、ウロウロしていた。 ④<Aちゃん、カ持ちだから、カバンから持っていく！>とカバンをロッカーに置いた。 ⑥<お替替えも軽い軽～い>と言いながら、替替えもロッカーに置いた。	⑤「カバンから持っていくんだね！よいしょ、よいしょ…カ持ちのAちゃんは、ロッカーに入れるの上手だね。凄いなあ～！」と25%ルールでほめた。 ⑦「凄いカ持ちさんだね！お替替えも、超特急でロッカーに置いたねー！カッコいい！」とほめた。
□/△ (○) 曇り	登園後、靴箱の前でAちゃんの側に行き、CCQで「カバンはロッカーに置きます」と言った。	「は～い」と言ってカバンをロッカーに置いた。	「カバンをロッカーに置いてくれてありがとう。さっすがー！」とハイタッチした。

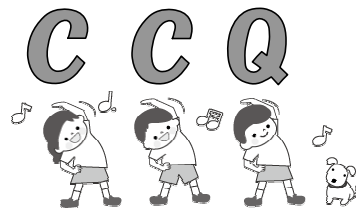


今日のポイント

■ 指示とは…子どもの好ましい行動を引き出すために、その時やるべき行動の内容を伝えること。

①指示を出す時のこころの準備体操

- C: ^{カーム}Calm 先生自身が穏やかな気持ちで
- C: ^{クローズ}Close もう少し子どもに近づいて
- Q: ^{クワイエット}Quiet 落ち着いた静かな声で



②予告+指示を出す

- 【1】子どもの注意を引いて・予告をして
- 【2】指示は短く具体的に（ポイントは“行動：見える・聞こえる・数えられる”）
工夫…選択法・協力法・特典法・ステップ課題・単一指示・環境調整 など
- 【3】落ち着いて、口調はきっぱり言い切り調で
- 【4】CCQ で何度か指示をくり返す

③25%ルールでほめる

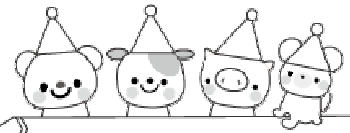
ホームワーク4 「指示の出し方シート」CCQ・指示を出す時の工夫を意識して、指示を出してみましょう♪

記入者名 _____

子どものニックネーム _____ (_____ 歳)

日付	指示の内容	子どもの反応	それでどうしたか？
月 日 ()			
月 日 ()			

ふ り 返 り



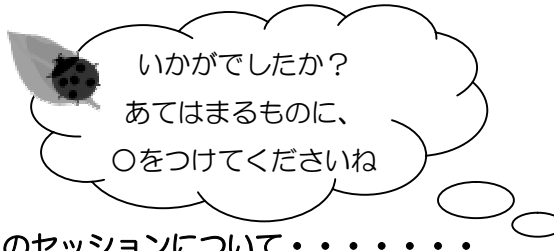
受講者用

第4回 年 月 日 ()

名前 ()

1 今日出席する前の、あなたの体調・気分はどのようでしたか？

良い ・ まあまあ ・ 悪い ・ どちらとも言えない



全くあてはまらない	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	非常にあてはまる
-----------	---------	---------	-------	----------

2 今日のセッションについて.....

- | | | | | | |
|---------------------------|---|---|---|---|---|
| ☆ 楽しかったですか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ☆ 内容はわかりましたか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ☆ 発表は十分にできましたか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ☆ <u>今日の目標</u> は達成できましたか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

- ⇒ ■子どもの行動に、肯定的な注目を与えていたか確認しよう
■どんな指示の出し方をすれば、子どもに伝わりやすいか考えよう

☆ 印象に残った内容・使えそう！と思った内容があれば、教えて下さい。

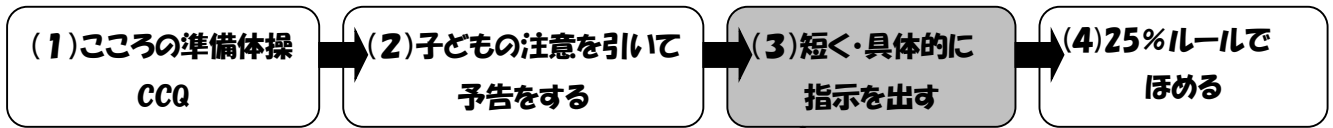
☆ 今日のセッションについて、感想、質問、疑問等がありましたら、お願いします。

おつかれさまでした☆



第4回 ティーチャー・トレーニング (ポイント)

指示とは…そのときやるべき行動を伝えること。子どもの好ましい行動を引き出すためのものです。



指示を出す時に出来る工夫

子どもの気持ちを考えて…

- 工夫① 選択法 「AとBどっちがいい？」選ばせて、気持ちの切り替えを。
- 工夫② 特典法 「〇〇出来たら△△できるよ」楽しみを、頑張る力に。
- 工夫③ 協力法 「A君の座り方がいいね！」他児をほめ、ほめられたい気持ちを。
- 工夫④ 見通し 「この活動が終わったら、次はこれをするね」次が分かると安心。

子どもに合わせて…

- 工夫⑤ ステップ課題 その子の頑張れる所から、少しずつ。
- 工夫⑥ 単一指示 「AしてBしてCして」はNG！指示は欲張らず一つずつ。
- 工夫⑦ 環境調整 指示が聞き取りやすい環境を整える。
- 工夫⑧ 視覚情報 指差したり、実物を見せて指示をすると分かりやすい。
- 工夫⑨ 言い切り調 「〇〇してくれる？」より「〇〇してね」「〇〇します」に。

(1) 基本はCCQ(“CCQ”を心がけましょう) *大切なポイント*

C : Calm 穏やかに	あなた自身が穏やかに
C : Close 近づいて	もう少し子どもに近づいてみましょう
Q : Quiet 落ち着いた声で	声のトーンをおさえて、はっきりとした口調で

* もし子どもが指示に従ったら、その時点ですぐにほめましょう(25%ルール)。

(2) 子どもの注意を引いて、予告する

- ・ 名前を呼んだり、肩をたたいたり、たまたま顔を上げたタイミングで声をかけたり
- ・ 指示を予告する(「あと5回したら～」等、今の行動を許可して猶予を)

(3) 短く・具体的に指示を出す

- ・ 指示ははっきり短く(お願い調、説教調、小言風はNG/複雑な指示は数段階に分ける)

(4) ほめて終了 ～指示に従い始めたら、すぐにほめる(25%ルール)～

- ・ すぐ指示に従った
- ・ 何度か指示を出すと嫌々ながらも従った
- ・ 先生に文句を言ったが、指示に従った

全て、
ほめましょう！



第5回 ティーチャー・トレーニング

【今日の目標】

- 子どもに合った指示の出し方を見つけよう。
- 許しがたい行動へ対応する時の注意点を知ろう。

1. ウォーミングアップ

2. 前回のポイント

3. グループワーク

ホームワーク④指示の出し方シート報告

4. ブレイクタイム



5. ステップ学習⑤

注目外し

警告とペナルティ

ホームワーク⑤行動観察シート（改）の説明

6. 今日のまとめ

ふりかえりシート記入



次は最終回

月 日 () ♪



注目外し

1. 「注目外し」「警告とペナルティ」を伝える前に…

今日ご紹介する「注目外し」「警告とペナルティ」は、行動観察を通し子どもについて理解した上で、なおかつ使用できる状況や場面の見極めが必要な方法です。もしも今日の説明を聞いて…「この方法なら、私の言うこと聞きそうだなあ!」「こういうのが知りたかった!」と思ったら、要注意!! 使用前の条件をしっかりと把握して、本当に使えるのか、必要なのか、見極めていきましょう!

2. ほめるために待つ「注目外し」とは

「自分の行動がよくないことを気づかせるため」に、子どもの存在を無視して放っておくのではなく、好ましくない行動から注目を外し、ほめるタイミングを待つこと（心の目・気持ちは、子どもに関心を向けておきます。←これが難しい!）。

注目外しは必ず **スタート宣言** + **注目外し** + **ほめる**

3. 「注目外し」をする前に… 必ず CHECK!!

条件 1 普段から、子どもの好ましい行動に肯定的な注目を与えていること



条件 2 子どもの好ましくない行動が、“注目を求めている”行動であること

本を読む、TVを見るなど、子どもが一人で楽しんでいる時に、注目を外しても効果はありません。また、注目を求めているも、友だちとケンカをするなどの間接的な場合には使えません。比較的使いやすい場面として、指示した後に子どもが口答えや言い訳をしたりして、取るべき行動を避けようとする時や、適切でない方法で要求を通そうとする時があります。

条件 3 子どもが、好ましくない行動の代わりに、取るべき行動が分かっていること

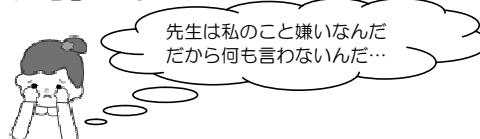
分かっている場合は、伝わりやすい指示をくり返すことから。まだ出来ない行動の場合も…。

条件 4 徹底して注目を外す、時間と心の余裕があること

注目を外すと、子どもは注目して欲しいため、好ましくない行動がヒートアップすることがあります。その段階で注目を与えてしまうと、「ここまで激しくしたら、見てもらえるんだ」と学習してしまいます。一度注目を外したら、徹底することが大切。注目外しには覚悟が必要です。

■注意■

注目外しは、肯定的な注目（ほめる）をしっかり行ってからこそ、効果が期待できます。普段から、子どもが「先生から肯定的な注目を与えられている実感」がなければどうでしょうか？



こんな風に、ただの傷つき体験になってしまいます。「どうせ先生は私を見てくれないんだ」「どうでもいいんだ」と、マイナスの循環に逆戻りです。注目外しをする前に、よく考えてみましょう。

好ましい行動をほめることで、好ましくない行動が減らせませんか？（第3回ステップ学習参照）指示の出し方を工夫することで、好ましい行動を引き出すことは出来ないでしょうか？（第4回ステップ学習参照）

4. Aちゃんと先生の例をみよう

Aちゃん 「せんせ〜い！お茶ちょうだい！お茶〜！お茶！お茶！お茶！お茶〜！！（大きな声）」

先生 「Aちゃん、先生と同じ位の声の大きさで“お茶ください”と言います。先生と同じ大き
きさで言えるまでは、Aちゃんのお話は聞きません」

Aちゃん 「えー！！お茶だってば〜！お茶お茶お茶お茶お茶〜！！（さらに大きな声）」

先生 「…（注目外し：机を拭いたり、別のことをしているが、気持ちはAちゃんに）」

Aちゃん 「もうっ！！…（静かな声で）お茶ください」

先生 「静かに“お茶ください”って言ってくれてありがとう。どうぞ」

注目外しのポイント

①条件をCHECK！

②タイミング

好ましくない行動が始まったら、すぐに注目を外します。



③注目外しの準備

「ダメ！」ではなく、代わりにどんな行動が好ましいのか、子どもに伝えます（効果的な指示の出
し方CCQを参考に）。そして「えいちゃんが〇〇するまで、先生はえいちゃんのお話を聞きません」の
ように、必ず注目外しの“スタート宣言”をします。

④視線・身体

視線をそらしたり、体の向きを変えるなどして、その行動を先生が好ましく思っていない・して欲し
くないと思っていることを、態度で伝えます。

⑤表情・感情

感情的にならずに、平常心を保ちます。眉間にしわを寄せたり、ため息や、怒りの表情で、否定的な
気持ちが伝わらないように努めます。何か他のことをすることで、先生自身の感情コントロールを試
みましょう。話題を変える・場所を移る・大きく深呼吸して10数える・仕事を黙々とする・他のこ
とを考えるなどもOKです。

⑥ほめる準備

少しでも好ましくない行動がおさまったり、別の好ましい行動がみられたら、25%ルールで、すかさ
ずほめます。

★
考えてみよう〜注目外しが使えると思うものに、○をつけよう〜

- () ご飯を食べない () お友だちから注目してほしいと叩いてしまう
() 片付けをしない () ぐるぐる回る

警告とペナルティ

1. 最後の最後の手段「警告とペナルティ」とは

「許しがたい行動（危険な行動・どうしてもやめさせる必要のある行動）」に対して、これまでの対応（行動観察・肯定的な注目・効果的な指示など）で行動が収まらない場合に、最後の最後の手段として使う方法です。最後の指示である【警告】と、本人が選択した結果として責任をとる【ペナルティ】を必ずセットで行います。

警告とペナルティは

「4歳までの子には使えない」
「“ペナルティの意味”は小学校高学年にならないと理解が難しいのでは」と考える人もいます。
大人にも子どもにも向き不向きがある。むやみに使うと非常に危険！



危険な行動・どうしてもやめさせる必要のある行動には

最後の指示
警告

+

選択した結果としての責任
ペナルティ

2. 「警告とペナルティ」をする前に…かならず CHECK！！

条件 1 普段から、子どもの好ましい行動に、肯定的な注目を与えていること

条件 2 許しがたい行動が、“意図的にしていて、子どもも周りも危険にしてしまう行動”であること

- 例えば「ブロックを投げる」という行動も、①腹が立ってお友だちに向けて「ブロックを投げる」という意図的な場合と、②ブロックを持っていた手に虫が止まって、払おうとしたら手を解いてしまい「ブロックを投げる」という無意図的な場合では、同じ危険な行動でも対応が異なりますね。
- また「道路に飛び出す」ことは、子どもも周りも危険にしてしまう行動ですが、“分かっちゃいるけどつい…”という（障害特性に近い）場合、必ずしも意図的とは言えません。その時は“飛び出さないようにしっかり手を繋いでおく”という環境調整が有効な時も。“先生と手を繋いで歩けたらほめる”など CCQ を使った指示や、他の安全な発散できる活動を作ってあげるのもポイントです。

条件 3 子どもが、代わりに取るべき行動が分かっていること

分かっていない場合は、伝わりやすい指示をくり返すことから。まだ出来ない行動の場合も…。どこまで分かっているか判断が難しい時は、かえって警告とペナルティを使う方が危険！！CCQ を使って指示をくり返すなど、他の方法を考えます。

条件 4 先生が冷静であること



条件 5 警告とペナルティを与えることで、子どもがパニックに陥る危険性がないこと

子どもの特性から、ペナルティを課すことでパニックをおこすかもしれないと予想される場合にも、ペナルティは課さずにその他の対応を。すでにパニックを起こしている場合は、刺激を減らして、落ち着かせることを優先します。

3. Bくんと先生の例をみてみよう ～Bくんが窓に向って、楽しそうにブロックを投げています～

Bくん 「よーし、次は赤っ！（ブロックを投げる）よっしゃー！当たったー！」

先生 「Bくん、次ブロックを投げたら、ブロック 10 分間先生が預かります」

警告に従った場合

Bくん 「はい（ブロックを投げるのをやめ、くっつけて遊び始める）」

先生 「Bくんブロック投げないでくれてありがとう。一緒に遊ぼうね」



警告に従わず、ペナルティを行う場合

Bくん 「嫌ーだねっ！次は青ー！（ブロックを投げる）」

先生 「はい、10分間預かります（ブロックを片付け、先生が持っていく）」

Bくん 「何するんだよー！今遊んでたのに！先生のバカ！返せー！」

10分後

先生 「はい、ペナルティは終わり。ブロックを返すね」

Bくん 「ちえ」

警告とペナルティのポイント



①条件を CHECK！

②最後の指示『警告』を行う

「今度〇〇したら、△△だよ」と、子どもにはいけない限界を明確に伝え、子どもに行動を変える最後のチャンスを与えます。最後の指示なので、与えるのは 1 回だけ。

【注意!!】それって警告になってる??

【×】 「それをやめないと、何が起こるか分ってるよね」

あやふやだと、約束になりません。警告は脅しではないので、明確に。

【×】 「もしブロックを投げ続けたら、今日からずっとブロックでは遊べないよ」

長すぎるペナルティは、怒りのみを残します。また、何の責任を取っているのかが分からなくなってしまい、効果がありません。適量で、実行可能なものに。

【○】 「今すぐブロックを投げるのを止めないと、ブロックを 10 分片づけてしまうよ」

③本人の選択した結果として、責任をとる『ペナルティ』を行う

■適切なペナルティ

問題行動に関係しているもので、子どもにとって意味があるもの。先生も心置きなく取り上げることが出来るもの。※恐怖心で従わせても無意味！体罰や暴言は絶対に使いません。

■適量

長すぎると怒りのみを残します。短時間で即座に実行出来るペナルティが有効。

■タイミング


「明日は使えないよ」と先延ばしにすると、何の責任をとっているのかが分からなくなります。特に警告の宣言だけで終わった場合、「おどすだけだな」と学習し、その後の指示や警告に従うことが出来なくなります。警告に従わなかったら、ためらわずに実行します。

■終了の仕方

子どもはペナルティという形で、自分の行動に責任をとっているの、「はい、ペナルティは終わり。ブロックを返すね」のように、さらっと流して終わります。また、最後になぐさめられると、悪い行動が強化されてしまう恐れもあります。※ペナルティ後のお説教もなぐさめません。

4. 警告とペナルティの流れを確認しよう


例) 友だちと積み木遊びをしているうち、取り合いでけんかになり積み木を投げ始めた場合。

<p>① 二人で仲良く積み木遊びをしている</p> <p>「積み木を2人で使ってるんだね、2人ともえらいね」</p> <p>「積み木を〇〇ちゃんに貸してあげてるんだ、優しいね～」</p> <p>② 喧嘩して積み木を投げ始める</p> <p>CCQで指示</p> <p>「積み木は投げません」</p> <p>「積み木はかごに入れます」→従ったらほめる</p> <p>CCQで指示を繰り返す</p> <p>「積み木は投げません」</p> <p>「積み木はかごに入れます」→従ったらほめる</p> <p>選択法の指示を使う</p> <p>「積み木は投げません」</p> <p>「その積み木はこっちのかごに入れる？それともこっちのかごに入れる？」→従ったらほめる</p> <p>③ それでも指示に従わず、積み木を投げ続ける</p> <p>警告を出す(1回)</p> <p>「投げるのをやめないなら、積み木は10分間使えません」→従ったらほめる</p> <p>④ 警告に従わず、積み木を投げ続ける</p> <p>ペナルティを与える</p> <p>積み木を10分間取り上げる→終わったら水に流す</p>	<p>仲良く遊んでいる ことをほめる</p> 
--	---

5. 最後に…

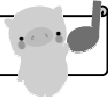
「ペナルティ」は与えなくてすむなら、与えない方がいいものです。
でも「走り回るなら、もうお外では遊ばせん！」など、日常場面でよく耳にする言葉かも…？
まずは“しっかり条件を考えて、警告してるかな？ペナルティ与えてるかな？”と、ふり返ってみて下さい。そして、ペナルティを課した時には、

どうしてそういう状況が起きたのかな？
子どもはどういう気持ちでいたのかな？



と、考えてみて下さい。客観的に行動観察することで、行動前に出来る環境調整や、途中で出来る声かけが見つかったりと、同じような状況を回避することが出来るはずですよ。

困ったときほど、行動観察を忘れずに♪



6. 最後のホームワーク

内容が盛りだくさんだったティーチャー・トレーニングも、いよいよ次で最後です。

行動の客観的観察から始まり…（ホームワーク①）

行動を3つに分け…（ホームワーク②）

好ましい行動には、肯定的な注目を…（ホームワーク③）

好ましくない行動には、子どもが動きやすい指示を…（ホームワーク④）

最後のホームワークは、「子どもの行動観察シート(改)」です。

これまでのティーチャー・トレーニングで実践してこられたことを意識して、取り組んでみましょう！

初めてのホームワーク「子どもの行動観察シート」から、どう変わってきたでしょうか？

ホームワーク1【行動観察シート（子どもの行動一対面—どうなったか（結果）観察シート）】

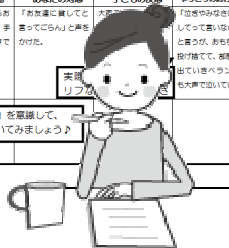
記入者名 ティーチャー・トシ子
子どものニックネーム Aちゃん (4歳)

日時	状況・場面	子どもの行動	あなたの対応	子どもの反応	やりとりの終わりの方	行動が起る頻度	どう感じましたか？
〇/△ (口)	昼食の中で、加減とフロックで遊んでいたとき。	加減が遊んでいるおちゃちゃを試しがり、手に入らないと大声で泣き出す。	「お友達に貸してと書いてこらん」と声をかけた。	泣き止み、おちゃを返してきて、お友達から出ていきベランダで大声で泣いていた。	「泣きやみなさい、貸して書いてきなさい」と書いたが、おちゃを返が来て、お友達から出ていきベランダで大声で泣いていた。	1週間に3-5回	大声で泣かなくてもいいのに…。

実践
リフレク

「見える・聞かえる・数えられる」を要領して、エピソードが目につくように書いてみましょう♪

そのときに感じた、先生の正しい気持ち「またかあ〜」「もう！自分で書いちゃってよ！」など書いてみてください。



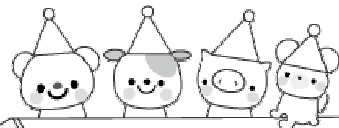
ホームワーク5 「行動観察シート（改）」子どもの行動—対応—どうなったか（結果）を観察しよう

記入者名 _____

子どものニックネーム _____ (_____ 歳)

日付	状況・場面	子どもの行動	あなたの対応	子どもの反応	やりとりの終わり方	双方の変化した所	どう感じたか？
月 日 ()							
月 日 ()							

ふり返り



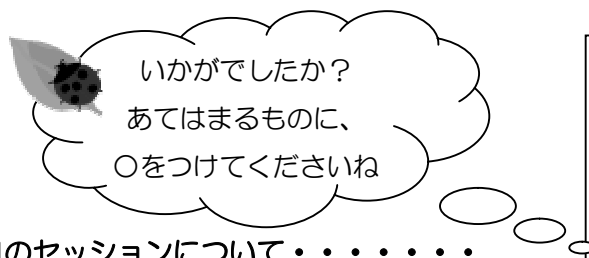
受講者用

第5回 年 月 日 ()

名前 ()

1 今日出席する前の、あなたの体調・気分はどのようでしたか？

良い ・ まあまあ ・ 悪い ・ どちらとも言えない



2 今日のセッションについて.....

全くあてはまらない	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	非常にあてはまる
-----------	---------	---------	-------	----------

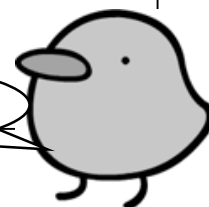
- | | | | | | |
|---------------------------|---|---|---|---|---|
| ☆ 楽しかったですか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ☆ 内容はわかりましたか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ☆ 発表は十分にできましたか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ☆ <u>今日の目標</u> は達成できましたか？ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

- ⇒ ■子どもに合った指示の出し方を見つけよう
 ■許しがたい行動へ対応する時の注意点を知ろう

☆ 印象に残った内容・使えそう！と思った内容があれば、教えてください。

☆ 今日のセッションについて、感想、質問、疑問等がありましたら、お願いします。

おつかれさまでした☆



使用するにはこの資料だけでは不十分です!!

第5回 ティーチャー・トレーニング (ポイント)

注意! 年齢や発達の特徴から、他者の意図を読むことが難しい・衝動的な行動でコントロールが難しい場合は、環境調整を取り入れた指示などを使いましょう。無理に使うとマイナスの循環に…。



注目外し

注目外しは、子どもの好ましくない行動から注目を外して、ほめるタイミングを待つこと。

条件1 普段から、子どもの好ましい行動に肯定的な注目を与えていること

普段から肯定的な注目をされていないのに、自分の好ましくない行動へも注目が外されると…「先生は僕のこと嫌いなんだ」「ダメな子だから無視されるんだ」と、ただの傷つき体験となり、マイナスの循環になってしまいます。使う場合はほめる8割、注目外し2割。

条件2 子どもの好ましくない行動が、“注目を求めている”行動であること

本を読む、TVを見るなど、子どもが一人で楽しんでいる時に、注目を外しても効果はありません。また、注目を求めているも、友だちとケンカをするなどの間接的な場合には使えません。

条件3 子どもが、好ましくない行動の代わりに、取るべき行動が分かっていること

取るべき行動が分かっていない場合は、伝わりやすい指示をくり返すことから。注目を外しても、出来なかったことが出来るようにはなりません。まだ出来るようになっていない行動の場合も使えません。

条件4 徹底して注目を外す、時間と心の余裕があること

注目を外すと、子どもは注目して欲しいため、好ましくない行動がヒートアップすることがあります。その段階で注目を与えてしまうと、「ここまで激しくしたら、見てもらえるんだ」と学習してしまいます。一度注目を外したら、徹底することが大切。注目外しには覚悟が必要です。

条件5 好ましい行動が出たらすぐに、ほめる準備が出来ていること

肯定的な注目をするために待っていたことを忘れず、すぐにほめましょう。

チューーい!
ごチューーもく!!



条件を満たしていたら…

- ① 好ましくない行動が始まったら、すぐに。
- ② 「ダメ!」ではなく、代わりにどんな行動が好ましいのか、子どもに伝える(効果的な指示の出し方CCQ)「〇〇するまで、先生はお話を聞きません」と、必ず注目外しの“スタート宣言”を。
- ③ 視線をそらしたり、体の向きを変えるなど、その行動を好ましく思っていない・して欲しくないと思っていることを、態度で伝える。
- ④ 感情的にならずに、平常心を保ちます。眉間にしわを寄せたり、ため息や、怒りの表情で、否定的な気持ちが伝わらないように努める。何か他のことをしながら、先生自身の感情コントロールを。話題を変える・大きく深呼吸して10数える・仕事を黙々とする・他のことを考えるなどもOKです。
- ⑤ 好ましい行動がみられたら、すかさず25%ルールでほめる!

条件を満たしていなかったら…行動観察にもどって、肯定的な注目・指示・環境調整を工夫しよう♪

使用するにはこの資料だけでは不十分です!!

(ポイント)



警告とペナルティ

「許しがたい行動」に対して、これまでの対応（行動観察・肯定的な注目・効果的な指示など）で行動が収まらない場合に、最後の最後の手段として使う方法。最後の指示である【警告】と、本人が選択した結果として責任をとる【ペナルティ】を必ずセットで行う。

条件1 普段から、子どもの好ましい行動に、肯定的な注目を与えていること

条件2 “意図的にして、子どもも周りも危険にになってしまう行動” であること

“分かっちゃいるけどつい…”という（障害特性に近い）場合、必ずしも意図的とは言えない。その時は“飛び出さないようにしっかり手を繋いでおく”という環境調整や、“先生と手を繋いで歩けたらほめる”などのCCQを使った指示や、他の安全な発散できる活動を作ってあげるのもポイント。

条件3 子どもが、代わりに取るべき行動が分かっていること

取るべき行動が分かっている場合は、伝わりやすい指示をくり返すことから。どこまで分かっているか判断が難しい時は、かえって警告とペナルティを使う方が危険!! CCQ を使って指示をくり返すなど、他の方法を考えます。

条件4 先生が冷静であること

チューーい!
ごチューーもく!!



条件5 警告とペナルティを与えることで、子どもがパニックに陥る危険性がないこと

子どもの特性から、ペナルティを課すことでパニックをおこすかもしれないと予想される場合にも、ペナルティは課さずにその他の対応を。すでにパニックを起こしている場合は、刺激を減らして、落ち着かせることを優先します。

*

条件を満たしていたら…

① 最後の指示『警告』を行う

「今度〇〇したら、△△だよ」と、子どもにはいけない限界を明確に伝え、子どもに行動を変える最後のチャンスを与えます。最後の指示なので、与えるのは1回だけ。

② 本人の選択した結果として、責任をとる『ペナルティ』を行う

■適切なペナルティ 問題行動に関係しているもので、子どもにとって意味があるもの。先生も心置きなく取り上げることが出来るもの。※恐怖心で従わせても無意味! 体罰や暴言は絶対に使わない。

■適量 長すぎると怒りのみを残します。短時間で即座に実行出来るペナルティが有効。

■タイミング 「明日は使えないよ」と先延ばしにすると、何の責任をとっているのか分からなくなります。特に警告の宣言だけで終わった場合、「おどすだけだな」と学習し、その後の指示や警告に従うことが出来なくなります。警告に従わなかったら、ためらわずに実行します。

■終了の仕方 子どもはペナルティという形で、自分の行動に責任をとっているのだから、「はい、ペナルティは終わり。ブロックを返すね」のように、さらっと流して終わります。また、最後になぐさめられると、悪い行動が強化されてしまう恐れもあります。※ペナルティ後のお説教もなぐさめしない。

条件を満たしていなかったら…

警告とペナルティをつかったら…行動観察にもどって、肯定的な注目・指示・環境調整を工夫しよう♪

第6回 ティーチャー・トレーニング

【今日の目標】

- 自分自身と、子どもの様子の経過をみてみよう
- これからがスタート☆

1. ウォーミングアップ

2. ティーチャー・トレーニング全体のふりかえり

3. グループワーク

ホームワーク⑤行動観察シート（改）報告

4. ブレイクタイム



5. 修了式・今日のまとめ

ふりかえりシート記入

全体の感想記入

ティーチャー・トレーニングも
いよいよ今日で最終回です！
皆さん本当にお疲れさまでした♪
最後まで楽しんで下さいね。



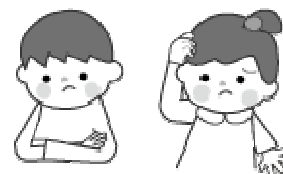
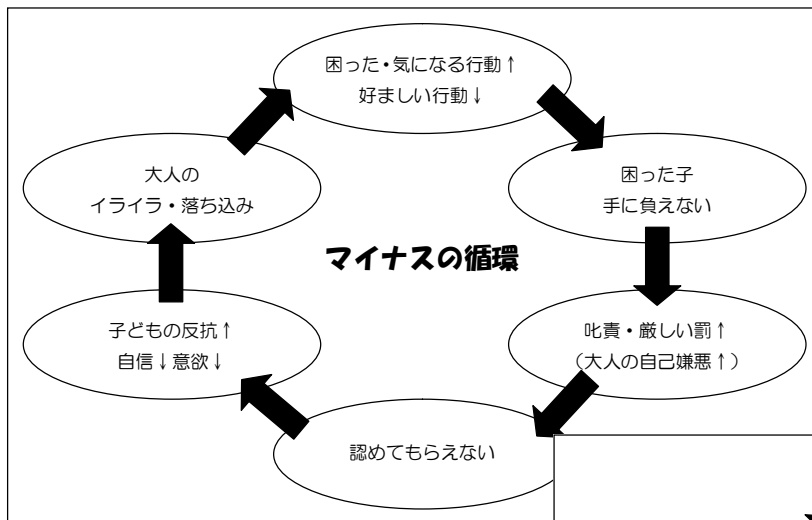
ティーチャー・トレーニングのふりかえり

ティーチャー・トレーニングの目的を確認しよう

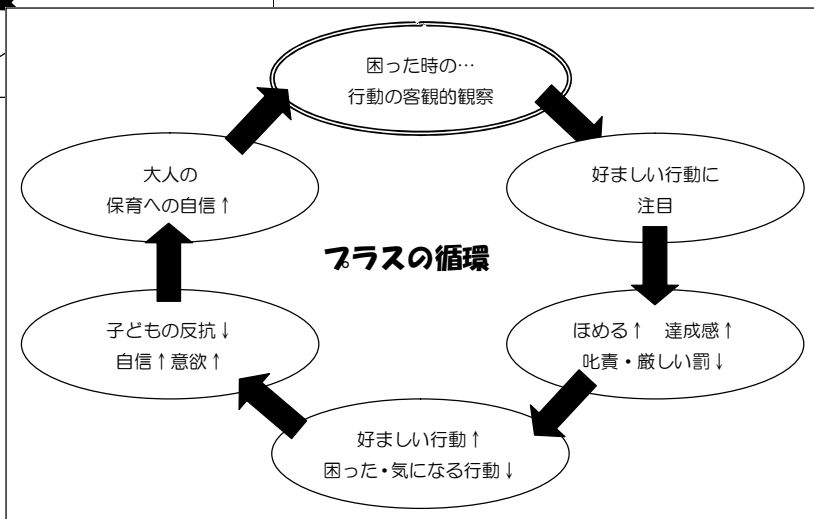
第1回

問1

ティーチャー・トレーニングは_____を目指すもの。



プラスの循環を目指すために…
先生ならどこから始められそうですか？



問2

プラスの循環を目指すために…ティーチャー・トレーニングでは_____から始める。

子どもの行動を観察して理解し、行動療法に基づく効果的な対処法を学びます。話し合い、練習(ホームワーク)して、よりよい子どもとの関係&好ましい行動の増加を目指すプログラムです。

行動観察 (行動の3分類)

↓
好ましい行動にプラスの注目

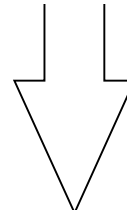
↓
好ましい行動を伸ばすコツ

↓
減らしたい行動への対処

↓
許し難い行動への対処

必ず！！

順序よく進みます。
テクニックは、子どもとの関係がプラスの循環になってから。



問3

行動とは…①見_____②聞_____③数_____④「~_____」と表現出来るもの。

*これは行動でしょうか？行動ならば○を、行動でなければ×を書いてみてください。

- ①【 】 AちゃんがBちゃんに優しくしていた。
- ②【 】 BちゃんがCちゃんに、おもちゃを貸さない。
- ③【 】 CちゃんはDちゃんにいじわるをした。
- ④【 】 DちゃんEちゃんの髪を引っばった。



<行動を客観的に観察することのメリット♪>

- ① 人格を否定しないですむ 例)「悪い子ね」→「○○したらダメよ」
- ② 子どもに伝わりやすい 例)「優しくして」→「5回したら代わってね」
- ③ 子どもの成長が確認出来る 例)「今日は5分座れた！」
- ④ 今後の関わりのヒントが見えてくる 例)「急に予定が変わるのが苦手みたい、早めに伝えよう」

問4

子どもの行動は、行動の_____と、行動の_____を含めて分析する。

- ①「行動の前」には、必ず引き金となる状況がある。“子どもがどうしてそのような行動をしたか”をふり返ると、事前に出来る対策が見えてくる。

ポイント 注目して欲しかったの？おもちゃが欲しかったの？嫌なことをしたくなかったの？もしかして、見え方・聞こえ方・感じ方が違うのかな？

- ②「行動の後」には、ほめられる、叱られるなどの結果が伴う。“子どもの行動に、周りがどう対応しているか”“子どもは行動の結果何を得たか”をふり返ると、対処の仕方が見えてくる。

ポイント 行動の後に、「その子にとって」いいことが増えれば、その行動は起こりやすくなる

*行動の意味を考えて、行動の前後を変えてみよう！

前（状況・きっかけ）	行動	後（結果）
絵本の読み聞かせが退屈	席を離れる	先生が追いかける (注目欲求が満たされる) (他の遊びができる)

<行動の前（状況・きっかけ）を変える>

- ・ 席を先生の前にする。
- ・ 子どもの興味のある絵本にする。
- ・・・など

<行動の後（対応の仕方）を変える>

- ・ 席についているときに、25%ルールで注目をする。
- (注目欲求を別の方法で満たす) など

子どもの行動を3つに分けてみよう【ホームワーク②子どもの行動を3つに分けよう】 **第2回**

- ① 好ましい/増やしたい行動
- ② 好ましくない/減らしたい行動
- ③ 許しがたい/なくしたい行動

3つに分けてみよう

目的 行動に応じた対応を、一貫させて行うため



子どもに肯定的な注目を与えよう【ホームワーク③子どもの行動をほめよう】

第3回

問5

肯定的な注目は、子どもが好ましい行動をしていることに「気づいてるよ」「知ってるよ」「見てるよ」と伝えること。そして、_____も「先生気づいてくれてる」「先生見ててくれてる」「先生認めてくれてる」と思えること。

注目言葉…励ます・感謝する・ほめる・行動に気づいていることを知らせる・興味や関心を示す 等
注目動作…視線を合わせる・子どもと同じ目の高さ・にっこり微笑む・ささやくように 等

ポイント 肯定的な注目後の、子どもの反応を観察しよう♪そうすると、〇〇くん・〇〇ちゃんのOK 注目集が出来てくる。その子に合っていることが大切。

NG 注目集にも気をつけて!!

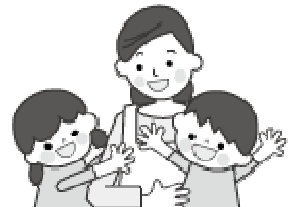
- 批判 「ちゃんとできたね。でも何で初めからしなかったの?」
- 横取り 「ほら、出来た。私の言った通りだったでしょう」
- 皮肉 「仲良く遊ぶなんて珍しいね。雨でも降るんじゃない。」
- 他児との比較 「~ちゃんより上手だね!」
- 要求 「上手に歌えたね。でも次はもっと上手く歌おうね!」



問6

肯定的な注目を与えるのはどんな時? 肯定的な注目を与えていいものに○をつけましょう。

- 【 】して当たり前なこと
- 【 】言われてからやったこと、
- 【 】これからも続けてくれたらいいなあと思うこと
- 【 】頑張ろうとしていること



問7

肯定的な注目は、_____ルールで与えます。100%まで待たないで!! し始めたらほめる、してる途中もほめる、出来たらほめる。

子どもが動きやすい指示を出そう【ホームワーク④子どもへの指示を意識してみよう】第4回

問8

指示は、その時にやるべき行動を伝えることで、お説教ではありません。必ず_____とセットで使います。

問9

指示を出す時の心構え CCQ は、「_____な気持ち」で、「もう少し子どもに_____て」、「落ち着いた_____声で」です。

ポイント ①子どもの注意を引く

②基本は CCQ

・指示は短く具体的に ・口調はきっぱり言い切り調で

③必ず 25%ルールでほめる

◆それでも…子どもに動いてもらえなかったときは？

工夫①選択法：「□□と〇〇、どっちがいい？」と、子どもに選ばせる方法

工夫②特典法：「□□したら〇〇出来るよ」と取り決めをする方法

工夫③協力法：「B さんの座り方がいいなー！」と好ましい行動をしている他児をほめて、好ましい行動に移れるように促す方法



許しがたい行動へ対応する時の注意点を知ろう

第5回

問10

注目外しとは…「自分の行動がよくないことを気づかせるため」に、子どもの存在を無視して放っておくのではなく、好ましくない行動から注目を外し、_____こと。

条件1 普段から、子どもの好ましい行動に、肯定的な注目を与えていること

条件2 子どもの好ましくない行動が、“注目を求めている”行動であること

条件3 子どもが、好ましくない行動の代わりに、取るべき行動が分かっていること

条件4 徹底して注目を外す、時間と心の余裕があること

条件5 好ましい行動が出たらすぐに、ほめる準備が出来ていること

①タイミング 好ましくない行動が始まったら、_____

②注目外しの準備

◆どんな行動が好ましいのか、子どもに伝える（効果的な指示の出し方 CCQ を参考に）

◆「〇〇するまで、先生はAちゃんのお話を聞きません」と注目外しの“_____”をする

③視線・身体 視線をそらす・体の向きを変えるなど

④表情・感情 感情的にならずに、平常心を保つ（舌打ち・ため息はNG）

⑤ほめる準備 少しでも好ましくない行動がおさまる・別の好ましい行動がみられる時は 25%ルールで！

問11

警告とペナルティとは…

これまでの方法を駆使しても、“どうしてもこれだけでは対応できないという危険な行動”、“どうしてもやめさせなければいけない行動”のみに使います。最後の指示である_____と、本人が選択した結果として責任をとる_____を必ずセットで行います。

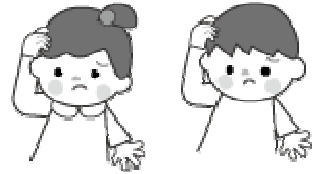
- | | |
|-----|--|
| 条件1 | 子どもの行動を客観的に観察出来、肯定的な注目を与えることが出来るようになっていること |
| 条件2 | 子どもが、何が悪い行動なのかが分かっており、どうすべきかが分かっていること |
| 条件3 | 警告とペナルティを与えることで、子どもがパニックに陥る危険性がないこと |
| 条件4 | 先生が冷静であること |

①事前に条件を厳しく確認

②警告

「今度〇〇したら、△△だよ」と1回明確に伝える。

今すぐブロックを投げるのをやめないと、ブロックを10分片付けてしまうよ



③ペナルティ

- ◆体罰や暴力は絶対に使わない!!問題行動に関係していて、子どもにとって意味があるものに。
- ◆短時間で即座に実行出来るものに（長すぎるペナルティは、怒りのみを残したり、何のペナルティが分からなくなる）
- ◆「はい、ペナルティは終わり。ブロック返すね」等さらっと流して終わる。お説教やなぐさめは×

子どもがのびのび過ごせるための工夫 環境調整

第3・4回

問12

子どもが、毎日の活動が理解しやすくなるように、過ごしやすくなるように、環境を整えることを_____と言う。「場所・空間」「時間」「課題」の工夫について、ティーチャー・トレーニングの中では紹介しました。

ポイント

①「場所・空間」の工夫

- ◆不要な刺激を減らす（気が散りそうなものは隠す・外の音が気にならないよう窓を閉める等）
- ◆活動と場所を一対一にする（“ここに来たら、これをするんだ”と思えるように）
- ◆視覚的に場所を示す（ロッカーに名前シールを貼る・スリッパの場所に足マークを貼る等）

②「時間」の工夫

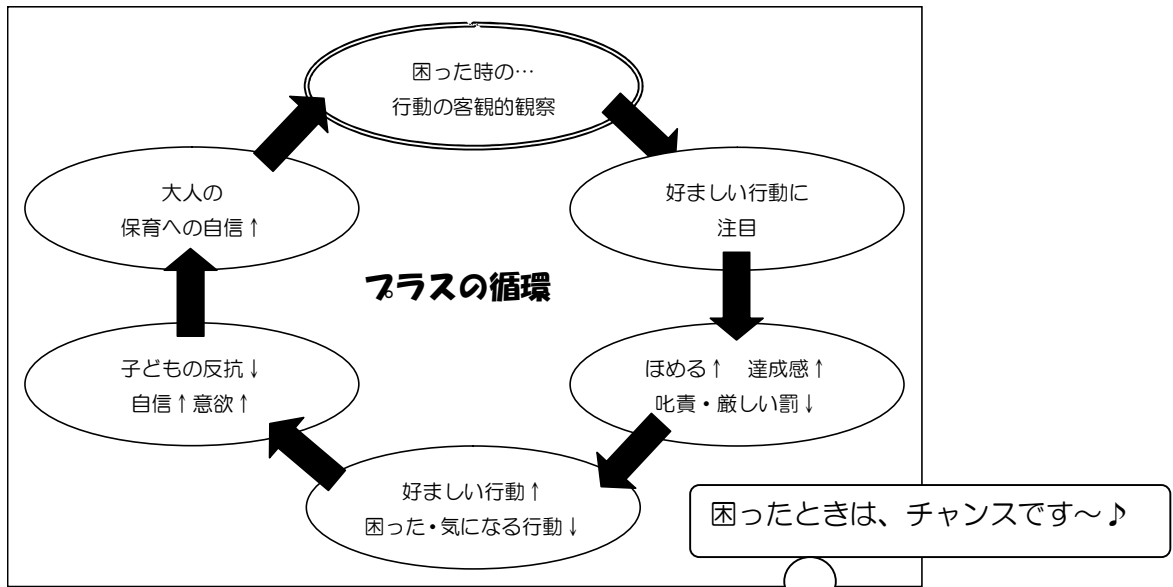
- ◆スケジュール表を作る（子どもに合ったものを一緒に作り、見える所に貼る）

③「課題」の工夫

- ◆大きな課題をひとつひとつ細かい課題に分けて、少しずつ与える
- ◆トークンシステム（がんばり表）



◎ プラスの循環：なんだか最近、マイナスの循環かも…?と思ったときは、変化のチャンス!



◎ スタートに向けて

子どもにとって、大好きな先生が笑顔で見つめ返してくれることは、頑張る力になります。日々の忙しい保育・教育の中で、「きついなあ」「大変だなあ」と思いながらも、投げ出さないで頑張っている自分のことも、“25%ルール”で認めてあげてくださいね。

今日うまくいかなくても、また明日があります。

「今日の自分、よくやった」「イライラしたけど、爆発しないで済んだわー！」などなど、

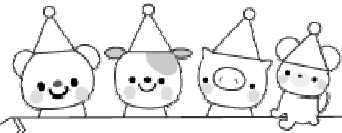
大人だって、認めてもらえることで、また頑張る力が湧いてくるものです。時には、これからの自分の小さな頑張りにごほうびをあげてくださいね♪本当にお疲れさまでした(^ ^)



◎ 参考文献

『AD/HD 児へのペアレントトレーニング』(2004) 岩坂 英巳、井瀬 知美、中田 洋二郎
 『こうすればうまくいく発達障害のペアレント・トレーニング実践マニュアル』(2009)
 上林靖子 監修 中央法規
 『読んで学べる ADHD のペアレントトレーニング むずかしい子にやさしい子育て』(2002)
 シンシアウィットナム 著作 上林靖子・中田洋二郎他 訳 明石書店

ふ り 返 り



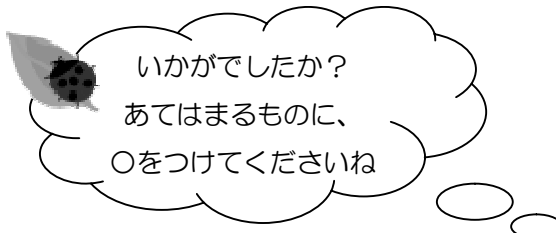
受講者用

第6回 年 月 日 ()

名前 ()

1 今日出席する前の、あなたの体調・気分はどのようでしたか？

良い ・ まあまあ ・ 悪い ・ どちらとも言えない



2 今日のセッションについて.....

全くあてはまらない	あてはまらない	どちらでもない	あてはまる	非常にあてはまる
-----------	---------	---------	-------	----------

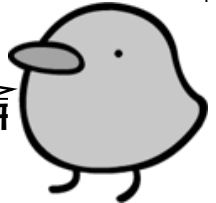
- ☆ 楽しかったですか？ 1 2 3 4 5
- ☆ 内容はわかりましたか？ 1 2 3 4 5
- ☆ 発表は十分にできましたか？ 1 2 3 4 5
- ☆ 今日の目標は達成できましたか？ 1 2 3 4 5

- ⇒ ■ティーチャー・トレーニングで活用できたことを考えよう
- 研修後も使えそうな方法を見つけよう
- 6回の研修に参加した自分に、小さなごほうびをあげよう

☆ 印象に残った内容・使えそう！と思った内容があれば、教えてください。

☆ 今日のセッションについて、感想、質問、疑問等がありましたら、お願いします。

おつかれさまでした☆



ティーチャー・トレーニング 全体の感想

氏名 _____

ティーチャー・トレーニングへの参加、本当にお疲れ様でした。今後の参考させていただくために、是非皆さんの意見をお聞かせください。下記の質問へのご記入、よろしくお願い致します。

1. 参加して、研修内容はおおむね理解できましたか？

はい いいえ



2. 参加して、あなたの子どもへの対応は変わったと思いますか？

はい いいえ



どのように変わったと思いますか？

3. 参加して、子どもの行動に変化がみられましたか？

はい いいえ



どのような変化がみられましたか？

4. 参加して、一番役に立ったと感じる内容は何ですか？

5. 参加して、大変だったことは何ですか？

6. 参加して、先生と子どもとの関係はどのように変わりましたか？

悪くなった 変わらない 良くなった

7. 今回のトレーニングの内容について、園のほかのスタッフと共有はできましたか？

はい いいえ



園のほかのスタッフと共有する際、どのような点が難しかったですか？



8. 今回のトレーニングで、スタッフに工夫してほしい点はありますか？

はい いいえ



それはどのような点ですか？

9. トレーニングを終えた今、どのような感想を持たれているでしょうか？

どんなことでも構いませんので、自由に書いていただくと嬉しいです。

ご協力ありがとうございました。

もっとほめるために…

トークンシステム(がんばり表)



もっとほめるために…トークンシステム（がんばり表）

トークンシステムとは？

目標になる行動を設定して、それが出来たらポイントを表に書き込み、ポイントが一定数たまったら、子どもの好きなごほうびと交換するもの

トークンシステムのメリット♪

- 子どもは、何をしたらいいのかが分かりやすい
- 子どもは、自分の頑張った行動が目に見えるため、励みになりやすい
- 先生は、子どもをほめることを思い出すことが出来る

トークンシステムをする前に…

① 子どもに身につけてほしい行動を5つ決める

- 是非身につけてほしい行動（ターゲット行動）：週1回程度出来るもの 1つ
- ちょっと頑張れば出来る行動：週2・3回程度出来るもの 3つ
- ほとんど出来ている行動（ダミー）：週4・5回程度出来るもの 1つ

※判定に迷わないように、具体的で分かりやすい項目にするのがポイント




例えば… 【×】ちゃんと座ってお話を聞く 【○】5分間座ってお話を聞く

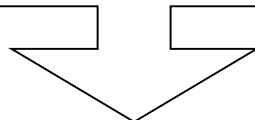
② 選んだ行動を、時間の流れにそって並べる

③ 1週間、子どもに内緒で行動を記録してみる

目標の行動が、1週間の間に何度出来るかを数えてみて、適当な目標かどうかを確認します。子どもにとって難しすぎる課題だと、やる気を失ってしまいます。全然出来ていない時は、どのくらい手助け（声かけ？先生と一緒にする？など）が必要かを確認します。

例

	がんばること	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11
1	あさからげんきに「おはよう」という					
2	あさのおあつまりで5ぶんすわっている					
3	きゅうしょくをのこさないでたべる					
4	はみがきを60かぞえるまでがんばる					
5	トイレにいったらスリッパをならべる					
	合計	3	3	3	5	2



さあ！やってみよう♪

① 子どもにトークンシステムを説明する

スペシャルタイム～

実況中継～

② ごほうびの要望を聞く

あらかじめいくつか考えておいて、その中から選ばせます。

スペシャルタイムも立派なごほうび♪

おっ!! Aくんが
アリスを見ている。
ん? 何か発見した
ようです。



③ 「目標行動」を子どもと決める

1週間の秘密の記録を頭に入れて、話し合います

④ 「1つ1つの項目の点数」を子どもと話し合う

ターゲット行動を高い点数にしたり、目標よりもさらに頑張った時には金シールにしたり、5つ全部出来たらボーナスポイントを作ったり…工夫することで、さらに意欲を高めることができます

⑤ 「ごほうびがもらえる点数」を子どもと決める

ポイントが何枚たまったら、ごほうびと交換できるかを決めます。「金曜日までに〇点たまっていたらごほうび」と、期日を区切るやり方もあります。

⑥ 子どもと2人でがんばり表を作る

⑦ 表を見える所に貼る

ほめるためのトークンシステムです。ポイントをつけるよりも、ほめることが重要です♪

⑧ 目標にしていた行動が出来たら、**すかさずほめて**、表にポイントをつける

出来なかったところに×はつけません。叱ったり、皮肉を言うのもNGです。

出来たところを認めて、ほめることに使います。

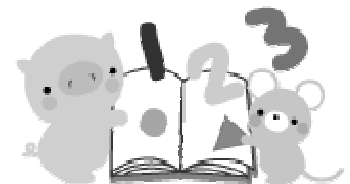
⑨ 1日の終わりに、子どもと一緒にポイントの数を数えて、子どもがその日にやれた行動をほめる

結果を、他の先生、保護者へ伝えるのもいいですね。

⑩ ポイントが目標までたまったら、忘れずにごほうびをあげる

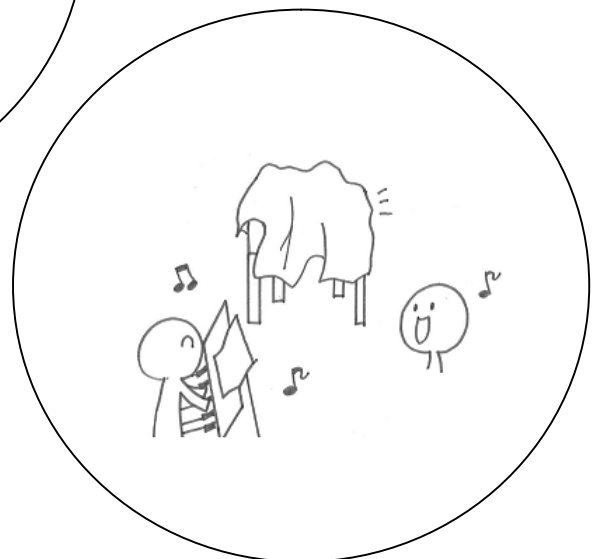
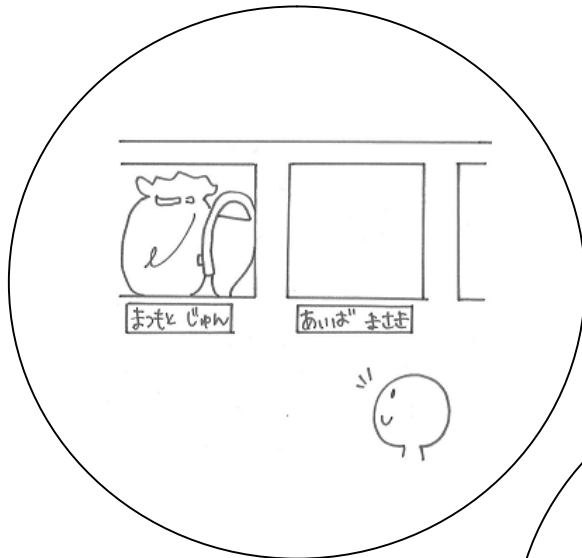
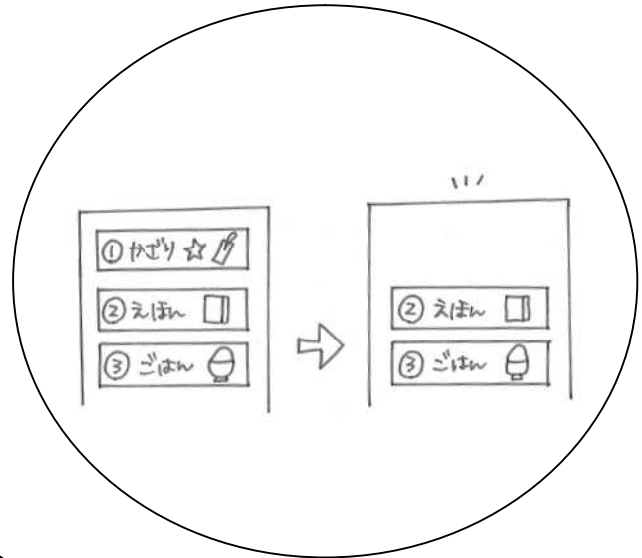
きちんと自分のがんばりを評価されてこそ、次もまた頑張ろうという気持ちになります。ごほうびは先延ばしにせずにごほうびをあげましょう。

途中でルールを変えると、子どもはやる気を失ってしまいます。



毎日の活動が理解しやすくなるように…過ごしやすくなるように…

環境調整アイデア集



環境調整

環境調整とは…毎日の活動が理解しやすくなるように、過ごしやすくなるように、環境を整えること ※環境調整をしてみた後は、必ず子どもの行動を観察し、その子に合っているかどうかをふり返ります



考えてみよう

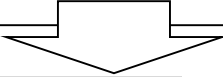
① Aくんの気持ちになって、お部屋を見てみよう…どんなことを感じますか？

[]

② Aくんの気持ちを踏まえて、出来そうな環境調整は何でしょうか？

[]

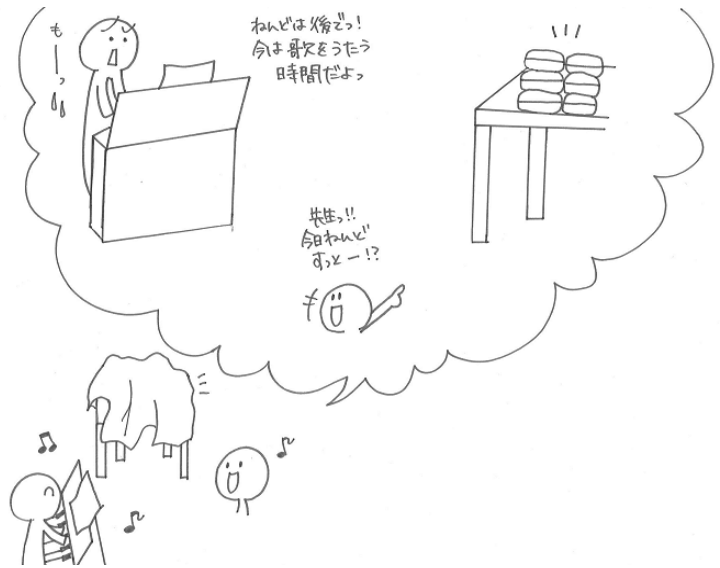
色々な刺激が入りすぎて、集中できない？
見通し（次に何をすることが分かること）が持てなくて、不安？
ルールや指示が、耳から聞く言葉だけでは、分からない？忘れちゃう？ 一部しか聞けない？
優先順位をつけるのが苦手？



ポイント① 不要な刺激を減らすことで、集中力 UP

視覚的に…

- ・ 掲示物は出来るだけ減らしシンプルに
- ・ 保育で使うものも、普段は見えないように棚やボックスにしまう
- ・ 棚や机の上、窓の外が気になる場合は、カーテンや布で覆う



聴覚的に…

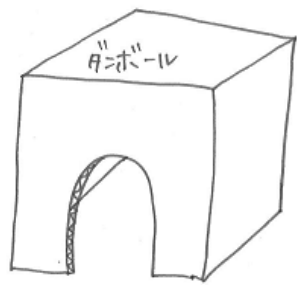
- ・ 隣のクラスの声や、自動車の音などは、ドアや窓を閉めてシャットアウト

ポイント② 活動と場所・配置を一致させて、見通しを持ちやすく

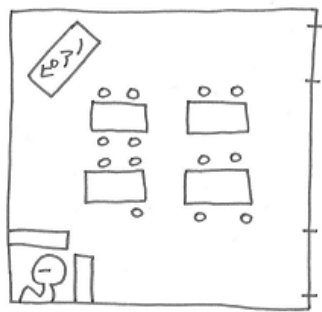
- ・ お遊戯室 … 雨の日だけ遊べる
ダンスの練習 など



- ・ クールダウンスペースを使う時 … 気分が悪い時・落ち着きたい時 など



部屋のすみや、廊下に置いた、クールダウンコーナーでも活用できる



部屋のすみや、110-テーションで区切って、カーテンをかけたクールダウンコーナーも

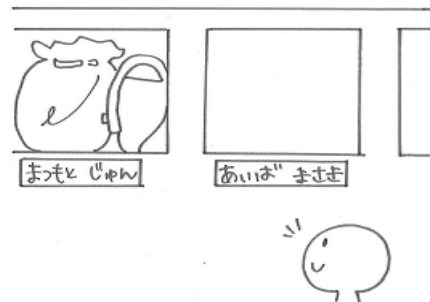
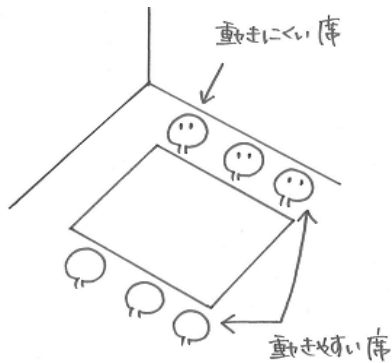
クールダウンスペースとは…

子どもが興奮してしまった時などに使う、クールダウンできるスペースのこと。
クールダウンスペースには、おもちゃや本は置かず、やや暗めの静かな場所にする。
怒りやイライラコントロールが難しい子のために、叩いてもいいクッションを置くことも。

ポイント③ 視覚的に場所を示す

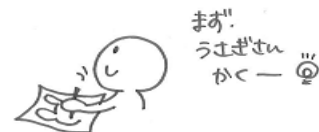
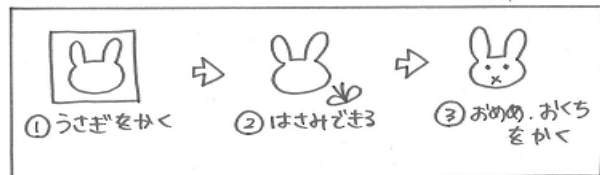
- 自分の持ち物をうまく片付けられない子…置き場所や収納場所をはっきり示す
- 集合する時、ウロウロしてしまう子…座る場所にフラフープやテープで印をつける
先生の前など、指定席を決める
活動の場所・立つ位置にテープやシート、台などを置く
出にくい位置にする
- 部屋から飛び出してしまう子…部屋の入口に赤いテープ「赤いテープから出ないでね」

入口のドアに「○」と「×」のパネル



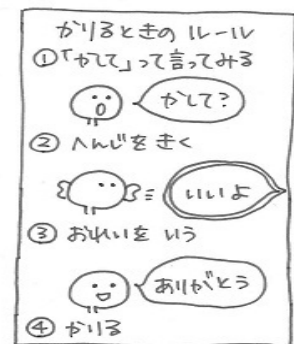
ポイント④ 口頭指示だけで伝わらない場合は、文字やイラストを用いて示してみる

- 課題に関すること … どういう風にするか、実際に見せたり、手順を示すと分かりやすい

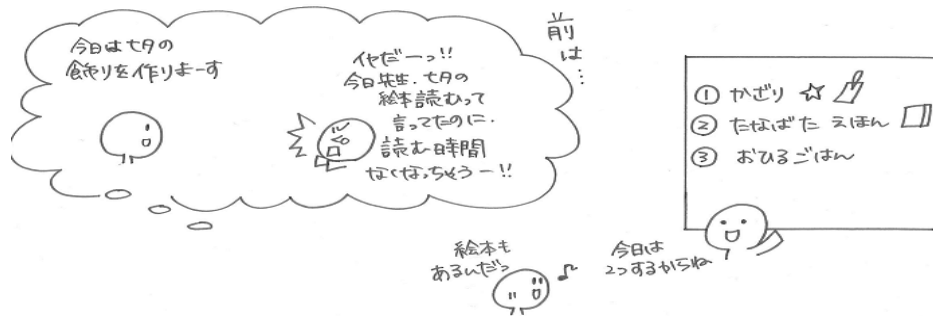


- ルールに関すること … 貸し借り・順番 など

最初は一緒に確認し、出来たら褒めるをくりかえす。



ポイント⑤ スケジュール表を作ってみる



手順① 内容を決める

- ・その子の「好きな活動」、「嫌いな活動」は？
- ・その子にとって「適度に難しい課題」と「簡単な活動」は？

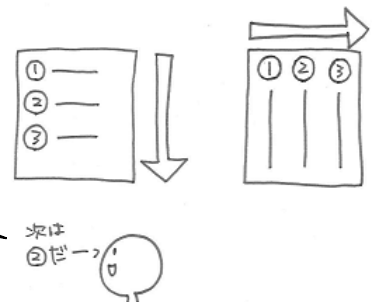
手順② 組み立て方

- ・「時間の長さ」や「内容」は子どもに合わせて
- ・最初は、すぐにできるような短めのスケジュール、簡単なスケジュールからスタート

手順③ 提示のしかた

- ・絵、写真、絵と文字の組合せ、その子の好きなキャラクターなど、目が行く工夫も
- ・時間の流れは、上から下、左から右
- ・子どもの目のつくところに掲示する（ドア・黒板など）

はじめは声かけをしながら一緒に☆



手順④ 今、どこまでできているの？ どれくらい時間が経っているの？ をわかりやすく伝える工夫

- ・終わった課題は、消したり、◎をつけたり、今している課題にマークをつけたり
- ・タイマー（音が出るもの、メモリが減っていくもの）の活用
- ・課題の最後は難易度を下げ、自分で出来た！と、気持ちよく終われるように

※子どもと一緒に作成し、うまくいかないときは、子どもと話し合って修正・変更する。

大切 予定が変更になる時…

- ・予定変更する場合もあることを最初に伝えておく（見通しがついて子どもも対応しやすい）※それでも、突然の予定変更子どもが混乱することがある…と、先生も予想しておく Good
- ・予定の変更は、なるべく早く伝える。
- ・急な予定変更を子どもが受け入れてくれた時は、ほめるチャンス到来です♪

スケジュール表作成のポイント

- 「こうあってほしい！」ばかりでは NG
- 「これだったら、できるかな?」、「これだったら『ほめられてうれしい』をさせてあげられるかな?」が大事。課題ではなく、「援助」「支援」ということを忘れずに…♪

子どものいいところ探し

前回から今日までの期間であった子どものいいところを発表しましょう！

ただし！ 実際にあったエピソードを発表してください。「優しい子」などの性格についてはありません。それについて、自分がどう感じたかということも入れられたら、さらにGOOD！！

☆ **まずは、となりの人とペア**になって、**ひとり1分間ずつ自由に話してください**。ペアの人はその話しについて**コメントを返してあげて下さい**。

☆ **そのあと、ひとりずつ皆の前で発表しましょう**。



リフレーミングゲーム ～短所はホントに短所！？～

あなたは自分のこと、子どものこと、長所と短所どちらを多く思い出しますか？
あなたが自分のこと、子どものこと、短所と思っていることはなんでしょう？
なぜ、我々はそれを短所と思うのでしょうか？

例えば…… 落ち着きがない

さあ、どんなふうに感じましたか？



私達は物事についての枠組み（フレーム）を持っています。

この枠組みを変えてみる（リフレーム）と見えなかったことが見えてくるかも……

さあ、やってみよう☆

1. 短所をさがしてみよう (自分や子ども、一般的なことでもOK☆)	2. 短所をリフレームしましょう (無理やりでもいいので長所に変えて みましょう!)
(例) 落ち着きがない	(例) 活発で元気がいい エネルギーが豊富

- 短所としてみると、それはイライラさせたり、無力感を生じさせます。
長所としてみると、それは安定をもたらす、新しい面の気づきや、対応するやる気にもつながります。
- リフレームすると、いいところが沢山発見できませんか？

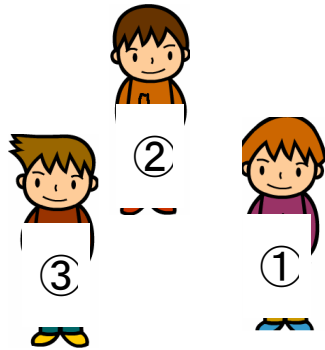


やってみてどうでしたか？感想を聞かせてください☆



ほめほめゲーム

1. 2～3人で1グループを作ります。
2. ①番の人から、「最近、自分の頑張ったこと」などを発表しましょう。
(どんな些細なことでも構いません♪)



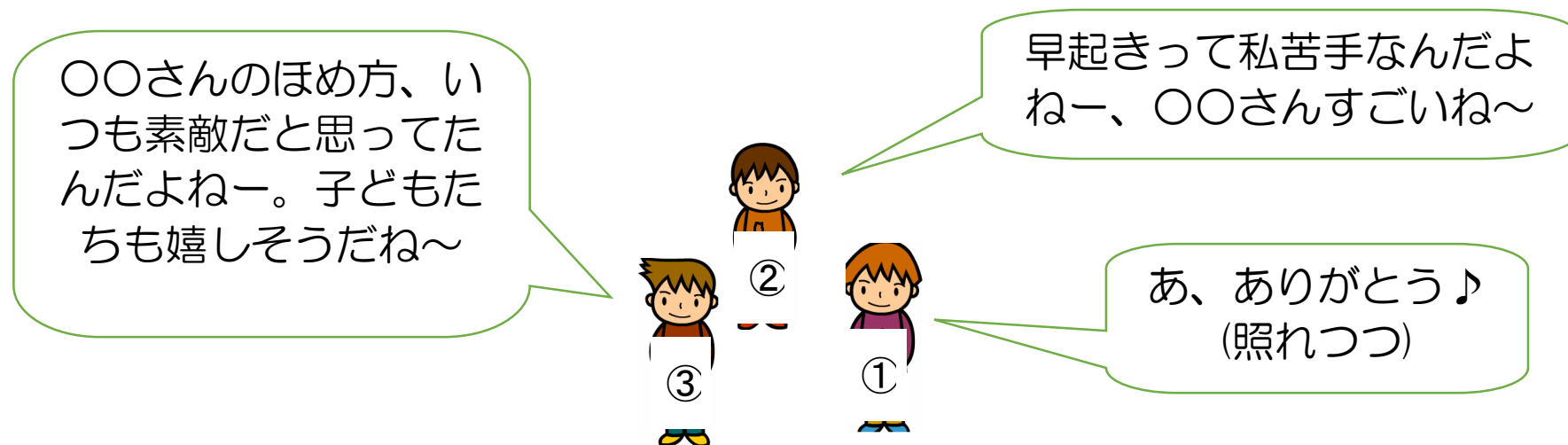
「私は頑張りました。なぜなら今日は、いつもより20分早く起きることができたからです。」

「私は良い人です。なぜなら子どもをほめることができるからです。」

*私が「終わり～」というまで言い続けて下さい。

できるだけたくさん出しましょう。

3. 1番の人を皆でほめてあげましょう☆ (質問を加えてほめてもOK)



*私が「終わり～」というまでほめ続けてください。

*ほめられた人は「ありがとう」と返して下さい。

決して、「そんなことはないよ」と謙遜しては×